

(仮称) 浦安市子ども図書館基本構想

**平成 31 年（2019）3 月
浦安市 教育委員会
生涯学習部 生涯学習課**





はじめに

一昨年3月、市民の皆様の付託を受け、市政の舵取りをさせていただくこととなり、常に私は、自分が生まれ育ったこの浦安を「みんなが大好き」と思う輝く未来のあるまちにしたいと考えています。

特に、浦安の子どもたちには、なかなか予測することが困難な社会環境の中で、あらゆる分野の多様な情報がいとも簡単に入手できるようになった一方で、子どもたちの持っている無限の可能性を伸ばすための読書活動の拠点を整備することが絶対に必要だと考えています。

そのため、今年度、生涯学習課にこども図書館準備室を設置し、子ども図書館の整備に向けた基本構想の検討を進めるよう指示し、その中で小学校、中学校、高等学校の子どもたちや子育て世帯、図書館利用者など6,000人を超える市民の皆様や、関係団体等の方々の意識や意見を伺うとともに、庁内に策定委員会、外部には有識者や関係団体、公募市民等で構成する策定懇談会を設置して基本構想の検討を進めてきました。

この検討体制の要である子ども図書館基本構想策定懇談会の会長には、植草学園大学及び植草学園短期大学の学長であらせられる中澤潤先生にお願いし、大変、お忙しい中、快くお引き受けをいただき基本構想をまとめることができました。

中澤先生には、この場をお借りし、衷心より感謝申し上げますとともに、汐崎副会長や他の委員の皆様に対しましても、浦安の子どもたちのために熱心にご議論をいただき、心より御礼を申し上げます。

この基本構想では、「いつでも誰でも気軽に立ち寄ることができる子ども図書館」をコンセプトに、日の出公民館の南側隣接地に整備を進めていく予定で、2021年度に整備させたい考えです。

全国でも1、2を争う若い都市と言われる本市ではありますが、少子高齢化という大波が、今まさに迫ってきています。

次代を担う浦安の子どもたちのためにきちんとした基礎を築いていくことが私の使命であり、多くの子どもたちに喜んでもらえる子ども図書館を整備していきたいと考えていますので、今後とも、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成31年3月

浦安市長 内田 悦嗣

目 次

第1章 基本構想策定の目的と背景等

1	基本構想策定の目的と背景	1
2	策定体制	2
3	各種調査・分析の概要	3

第2章 本市の図書館行政と子どもたちを取り巻く現状と課題

1	市立図書館の沿革	4
2	国の動向と全国的な子どもの読書に関する実態の整理	7
3	本市の子どもの読書活動推進等に関する既定計画における取り組み状況の整理	8
4	本市の人口動向	11
	（1）市全体の人口	11
	（2）18歳以下の人口	12
5	本市の図書館の現状と課題	14
	（1）市立図書館の児童書の貸出状況	14
	（2）市立図書館の児童サービス関連の事業・行事の実施状況	15
	（3）学校図書館の状況	16
6	既存の各種意識調査からみた課題	17
7	子どもの読書活動の推進に取り組む団体からの意見	23
	（1）実施概要	23
	（2）意見聴取のまとめ	23
8	今回実施した意識調査の結果から見た課題	24
	（1）子どもの読書の状況	24
	（2）子育て世帯の読書の状況	30
	（3）市立図書館の利用状況	31
	（4）子ども図書館に望むこと	36
9	課題のまとめ	44

第3章 (仮称) 浦安市子ども図書館基本構想

1	課題解決に向けた視点	45
2	目指すべき子ども図書館像	46
3	4つの子ども図書館像の実現に向けた基本方針	49
4	子ども図書館の計画概要	51
(1)	施設の概要	51
(2)	建設予定地	51
(3)	施設構成	52
(4)	子ども図書館に導入する設備	52
(5)	子ども図書館の設営	55

(仮称) 浦安市子ども図書館基本構想の体系イメージ	57
---------------------------	----

第1章 基本構想策定の目的と背景等

1 基本構想策定の目的と背景

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、想像力を養い、感性を磨き、表現力を高め、人生をより深く生きる力を身につけていくために欠くことのできないものです。子どもは、本の中でさまざまな人物や世界と出会い、多様な考えや生き方があることを知るとともに、いろいろな種類の本に触れることにより、自分で学ぶことの楽しさを知り、探求心や創造力を育てていきます。近年、読書によって培われる国語力がすべての学習の基礎であることも再認識されており、子どもが読書習慣を身につけ、自主的に読書活動をしていくことはとても大切なことです。

国は、子どもの読書活動を推進するため、平成13年12月に「子どもの読書活動の推進に関する法律」を施行し、子どもたちが自主的な読書活動を行うための環境の整備を進めています。本市においては、昭和58年に開館した中央図書館のサービス内容に「子どもの読書に力を入れる」ことを第一に明記し、児童サービスをすべての図書館サービスの基礎と捉えて長年にわたり力を注いできました。現在は、国や県の動向を踏まえ、平成26年4月策定の「浦安市子ども読書活動推進計画（第二次）」に基づき、子どもの読書活動の推進に努めているところです。

しかしながら、近年、インターネットや携帯電話などの情報機器の普及等により、子どもの生活環境は大きく変化し、読書離れが進んでいるのが現状です。少子化の進展や就労環境の変化に加え、本市では、高い核家族率、全国や近隣市と比較して非常に低い合計特殊出生率など、子どもと家庭を取り巻く環境が変化しています。

そのような中で、図書館の利用方法や目的も変化しており、親子で気兼ねなく本を読んで過ごせる場や、子どもの発達や成長段階に合わせた児童サービス等が求められています。

また、家庭をはじめ保育園や認定こども園、幼稚園、学校などの、子どもの生活の場での読書活動の推進や、関係機関との連携、子どもの読書活動に取り組む人材の育成や活用も求められています。

本市では、こうした社会状況の変化や新たな市民ニーズに対応し、これまで蓄積してきた市立図書館の児童サービスを継承・発展させながら、子どもの読書活動を推進するために、新たに子ども図書館の整備について検討することといたしました。

子どもが本に親しみ、読書習慣を身につけ、気軽に集うことができる場として、また、すべての子どもたちの主体的な学びの場として、子どもの読書活動の推進の拠点となる「(仮称)浦安市子ども図書館」の整備に向け、基本構想を策定します。

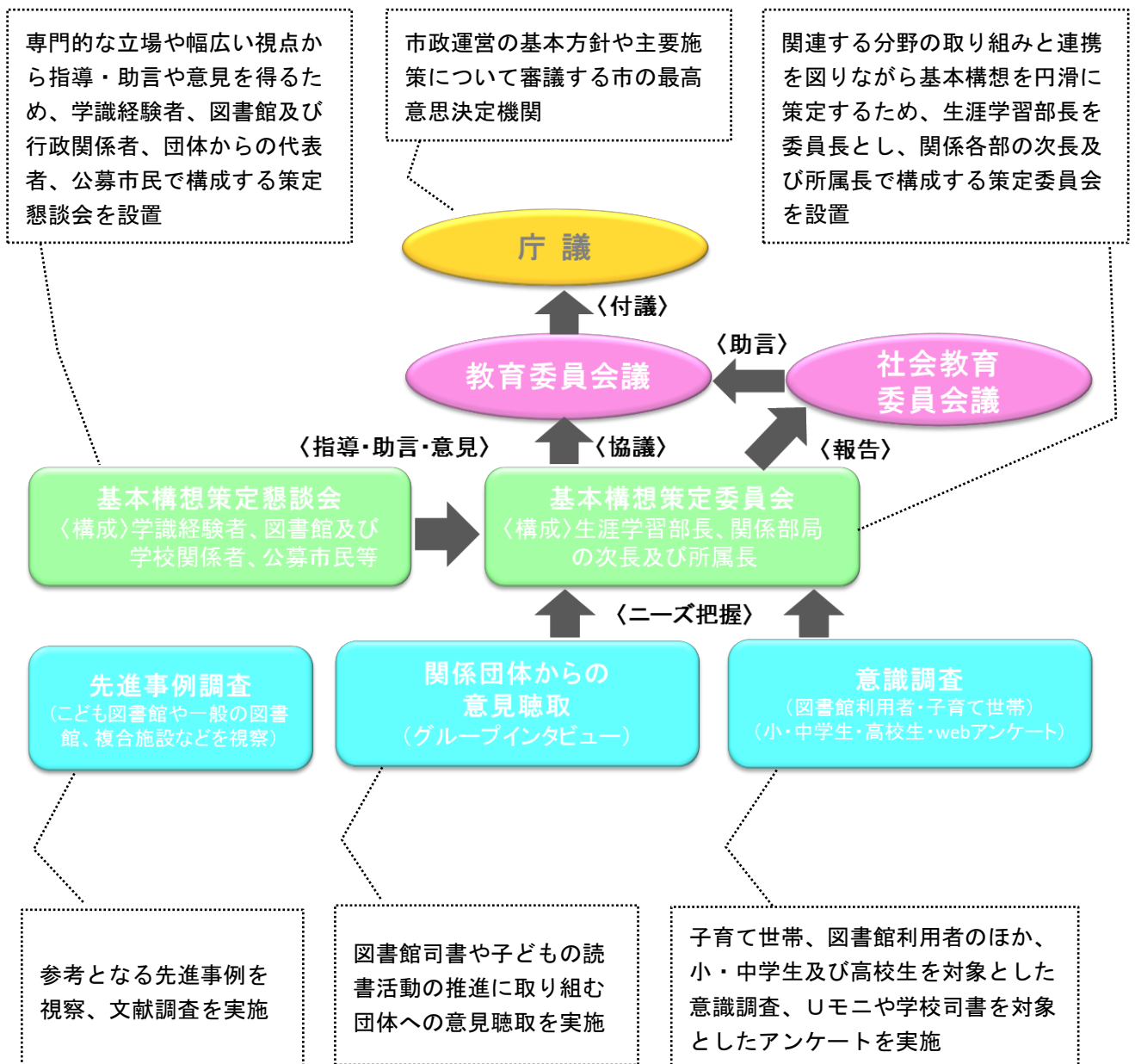
2 策定体制

基本構想につきましては、生涯学習部長を委員長とし、関係各部の次長及び所属長で構成する策定委員会を設置し取りまとめを行うとともに、庁議で決定しました。

また、構想の策定にあたり、学識経験者や図書館関係者、公募市民などで構成する策定懇談会を設置し意見や指導・助言をいただくとともに、教育委員会議や社会教育委員会議などからも意見をいただきました。

さらに、各種意識調査の実施や関係団体からの意見聴取を行い、市民ニーズの把握に努めるとともに、これまで実施してきた図書館の児童サービスの現状と課題について整理しています。

<基本構想策定体制>



3 各種調査・分析の概要

基本構想の策定にあたり課題等を把握するため、次のような調査・分析等を実施しました。

①既存資料・データの整理・分析の概要

項目	主な参照資料等
国の動向と全国的な子どもの読書に関する実態の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」(文部科学省 H29. 3) ・第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」(文部科学省 H30. 4) ・学校読書調査
子どもの読書活動推進等に関する浦安市の既定計画における取り組み状況の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・浦安市総合計画基本構想 (H11 年 12 月議決 目標年度 32 年度) ・浦安市総合計画第 2 期基本計画 (H26 修正～29 年度) ・浦安まちづくり 3 か年計画 (H30～32 年度) ・浦安市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (H27～31 年度) ・浦安市教育ビジョン (H27～31 年度) ・浦安市生涯学習推進計画 (H25～29 年度) ・浦安市子ども読書活動推進計画 (H26 年度から概ね 5 年間)
浦安市の人口動向把握	・平成 29 年度浦安市人口推計確定版
浦安市の既存の各種意識調査結果の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・市政に関する市民意識調査 (H26・30 年) ・浦安市小・中学校生活実態調査 (H24・26・28 年度) ・保護者及び教員の教育に関する意識調査 (H25・27・29 年度)
市立図書館の現状把握	・浦安市立図書館統計

②構想策定に向けた関係団体からの意見聴取の概要

調査名	対象
市立図書館司書インタビュー	浦安市立図書館児童サービス担当者等
子どもの読書活動の推進に取り組む団体等からの意見聴取	浦安おはなしの会・浦安市図書館友の会・すみれ・南小学校図書館ボランティア友の会・ルフラン

③構想策定に向けた各種意識調査の概要

調査名	対象	回収数
学校図書館の連携に関するアンケート	浦安市立小・中学校の学校図書館に勤務する司書	小学校 16 校 中学校 9 校
小・中学生意識調査	市内の小・中学校に通う各学年の児童・生徒	小学生 2,953 人 中学生 856 人
高校生意識調査	市内の高校に通う各学年の生徒	437 人
子育て世帯市民意識調査	未就学の子どもがいる世帯	262 世帯
図書館利用者意識調査	市立図書館の利用者	1,043 人
Web アンケート調査	Uモニのモニター登録者	395 人

④先進事例調査の概要

対象
安城市図書情報館・伊万里市民図書館・恵庭市立図書館・小川町立図書館・柏市立図書館こども図書館・北九州市立子ども図書館・剣淵町絵本の館・札幌市えほん図書館・武雄市こども図書館・東京子ども図書館・飯能市立こども図書館・ふきのとう文庫・荒川区立ゆいの森あらかわ

第2章 本市の図書館行政と子どもたちを取り巻く現状と課題

1 市立図書館の沿革

本市は、千葉県の西端に位置し、西は旧江戸川を隔てて東京都江戸川区、北は市川市に接し、三方を海と河川に囲まれた平坦なまちです。市域は、昭和40年から始まった2期に渡る公有水面埋立事業によって4倍に拡大し、東西6.06km、南北6.23kmの半径4km圏に囲まれた16.98㎢となり、人口は平成30年12月末現在169,443人となっています。

本市においては、昭和25年の「図書館法」の公布や、県による移動図書館「ひかり号」が旧浦安町内の巡回を開始したことを受け、住民の関心が読書に向けられました。

その後、昭和44年の営団地下鉄東西線の開通や埋立地の住宅開発が急速に進む中で、PTA文化委員会の運営による母親読書センターの開館や、旧千葉銀行浦安支店を活用した浦安町立図書館の開館、移動図書館巡回開始等、図書館づくりの機運が大きく高まりました。

昭和55年には住民主体の「こんな図書館がほしい会」や「(仮称)浦安町中央図書館建設委員会」が設置され、中央図書館の整備が本格的に始まりました。そして、昭和58年、市庁舎や文化会館等が集積するシビックセンター地区に中央図書館が開館しました。また、市民への均質な図書館サービスを展開するため、「歩いて10分、どこでも本が借りられる図書館」をコンセプトに図書館網の整備を進め、半径1km範囲内の公民館に図書室(後に分館)を併設し、現在、中央図書館を核に分館7館と、駅前図書サービスコーナー等を3か所配置してサービスを行っています。

中央図書館は、市立図書館の中心館として分館が収集する資料のほかに、専門的な図書や参考図書、地域行政資料や分館のサービスを補完するための資料を収集しています。分館は、市民の一般教養や実用、趣味及び娯楽等に資する資料のほか、調査研究のための基礎的、入門的な資料も収集することとしています。

本市の図書館の児童サービスについては、昭和55年に設置された「(仮称)浦安町中央図書館建設委員会」が策定した「(仮称)浦安町中央図書館建設計画」において、第一に「子どもの読書に力を入れる」ことが明記される中で、昭和56年には旧市立図書館(現在の猫実分館)で「子どもの本の講座」を開催しました。さらに、中央図書館開館後は、「おはなし会」や「クリスマス会」「科学で遊ぼう」等の子ども向けの行事の開催や、推薦図書リスト「よむよむ」の作成、幼稚園や保育園、小学校等に出向いて読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークを行う類縁機関サービス、保護者や子どもの読書に携わる大人向けの「親子で楽しむ絵本講座」「絵本のよみきかせ講座」も開始しました。中央図書館の開館20周年を迎えた平成15年には、こうした取り組みが評価され、「子どもの読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰」を受賞しました。その後も、「ブックスタート絵本講座」等、さまざまな事業や行事を開催しています。平成18年度には、累計貸出冊数が3,000万冊を突破、蔵書冊数は100万冊を超え、平成22年度には、市内初の複合施設内に高洲分館を開設、累計貸出冊数が4,000万冊を突破しました。平成23年の東日本大震災では、一部の館が被害を受け、一時休館しました。震災後は、平成26年度から各公民館の大規模改修に合わせて、分館のリニューアルを進めています。中央図書館については、平成30年12月末で一時休館し、大規模改修工事を実施しています。

＜市立図書館のこれまでの主な歩みと児童サービス関連事項＞

昭和 24 年 (1949 年)	【県】国内初の移動図書館「ひかり号」を導入
昭和 25 年 (1950 年)	【国】国が「図書館法」を公布 【県】「ひかり号」2号車を導入、浦安町に巡回開始 「ひかり号運営委員会」を設置、ひかり号の浦安町のステーション (清滝神社境内) で図書の貸出を開始
昭和 28 年 (1953 年)	【国】国が「学校図書館法」を公布
昭和 32 年 (1957 年)	浦安町教育委員会内に図書室設置 (中学生以上を対象に貸出)
昭和 43 年 (1968 年)	浦安小学校 P T A 母親読書センターが小学校の図書室の一部を 借り受け開館 (P T A 文化委員会が運営)
昭和 44 年 (1969 年)	浦安町立図書館開館
昭和 46 年 (1971 年)	南小学校母親読書センター開館
昭和 50 年 (1975 年)	移動図書館巡回開始
昭和 55 年 (1980 年)	住民主体の「こんな図書館がほしい会」発足 (仮称) 浦安町中央図書館建設委員会設置
昭和 56 年 (1981 年)	市政施行後、町立図書館を市立図書館に改称 「子どもの本の講座」開始
昭和 57 年 (1982 年)	堀江公民館図書室開館 (のち分館に改称)
昭和 58 年 (1983 年)	浦安市立中央図書館開館 旧市立図書館を猫実分館に改称 富岡公民館図書室開館 (のち分館に改称) 「おはなし会」「クリスマス会」開始
昭和 59 年 (1984 年)	児童推薦図書リスト「よむよむ」発行開始、「科学で遊ぼう」開始
昭和 60 年 (1985 年)	「えほんのじかん」開始
昭和 62 年 (1987 年)	美浜公民館図書室開館 (のち分館に改称)
昭和 63 年 (1988 年)	類縁機関サービス開始
平成 3 年 (1991 年)	「親子で楽しむ絵本講座」開始
平成 4 年 (1992 年)	教育委員会が学校図書館への司書配置を開始
平成 7 年 (1995 年)	子ども用に更新した図書検索システムを設置 学校司書の全校配置完了
平成 8 年 (1996 年)	当代島公民館図書室開館 (のち分館に改称)
平成 10 年 (1998 年)	日の出公民館図書室開館 (のち分館に改称)
平成 13 年 (2001 年)	【国】「子どもの読書活動の推進に関する法律」を公布
平成 14 年 (2002 年)	【国】「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画 (第一次)」を閣議決定 「赤ちゃんと楽しむわらべうたの会」「絵本のよみきかせ講座」開始
平成 15 年 (2003 年)	子どもの読書活動優秀実践図書館文部科学大臣表彰を受ける ブックスタート事業開始
平成 16 年 (2004 年)	【県】「千葉県子どもの読書活動推進計画 (第一次)」を策定 「ブックスタート絵本講座」開始
平成 17 年 (2005 年)	【国】「文字・活字文化振興法」を公布
平成 19 年 (2007 年)	「としょかんの小さなおはなし会」を全分館で開催 中央図書館で第 1・2・5 土曜日に「えほんのじかん」を開始
平成 21 年 (2009 年)	「浦安市子ども読書活動推進計画」策定
平成 22 年 (2010 年)	高洲分館開館
平成 26 年 (2014 年)	「浦安市子ども読書活動推進計画 (第二次)」策定
平成 27 年 (2015 年)	累計貸出冊数 5,000 万冊突破 (全国の同規模自治体では最短)

<市立図書館配置図>



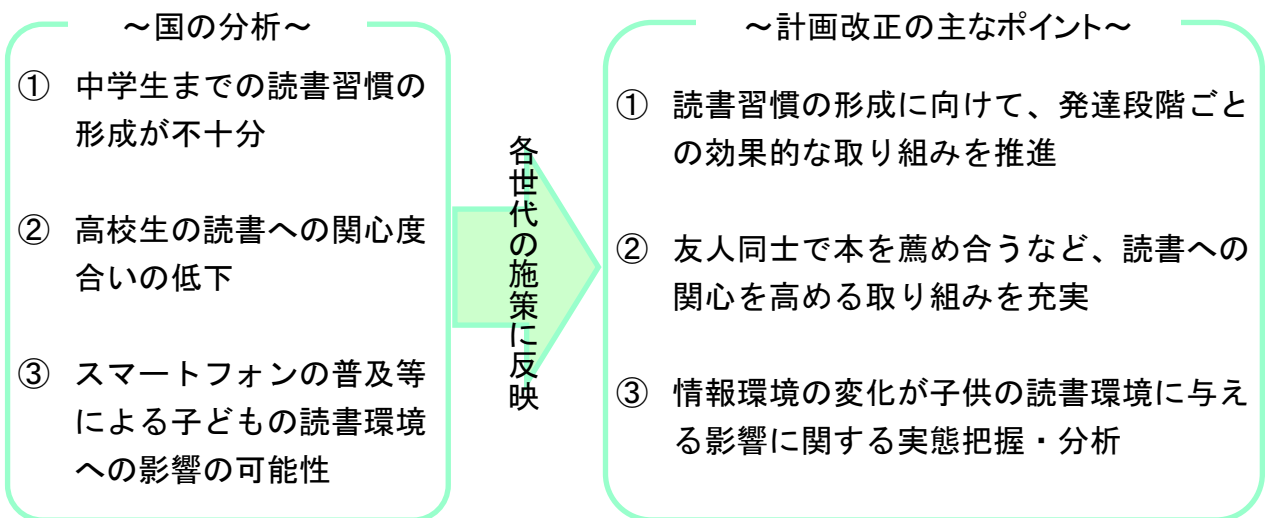
	延床面積 ㎡	蔵書数 冊	利用者数 人	個人貸出冊数 冊	設置年	収集分担	
						中央図書館	分館
①中央図書館	5,296	750,523	216,222	742,669	昭和58年	市立図書館の中心館として分館が収集する資料のほか、専門的図書、参考図書、地域行政資料、分館のサービスを補完する資料の収集に努める。	市民の一般教養や実用、趣味及び娯楽等に資する資料のほか、調査研究に資するための基礎的、入門的な資料も収集する。
②堀江分館	251	45,757	32,986	105,012	昭和57年		
③猫実分館	245	49,140	17,496	49,765	昭和57年		
④富岡分館	234	47,217	54,831	153,917	昭和58年		
⑤美浜分館	317	51,709	35,544	104,646	昭和62年		
⑥当代島分館	197	39,299	32,791	95,830	平成8年		
⑦日の出分館	230	58,016	83,410	239,323	平成10年		
⑧高洲分館	407	71,709	61,195	190,437	平成22年		
⑨新浦安駅前プラザ図書サービスコーナー	50	-	97,622	189,269	平成18年		
⑩舞浜駅前行政サービスセンター	-	-	11,573	22,718	平成22年		
⑪浦安駅前行政サービスセンター	-	-	16,117	32,972	平成24年		
合計	7,227	1,113,370	659,787	1,926,558	-		

* 浦安市立図書館統計 (平成 29 年度)

2 国の動向と全国的な子どもの読書に関する実態の整理

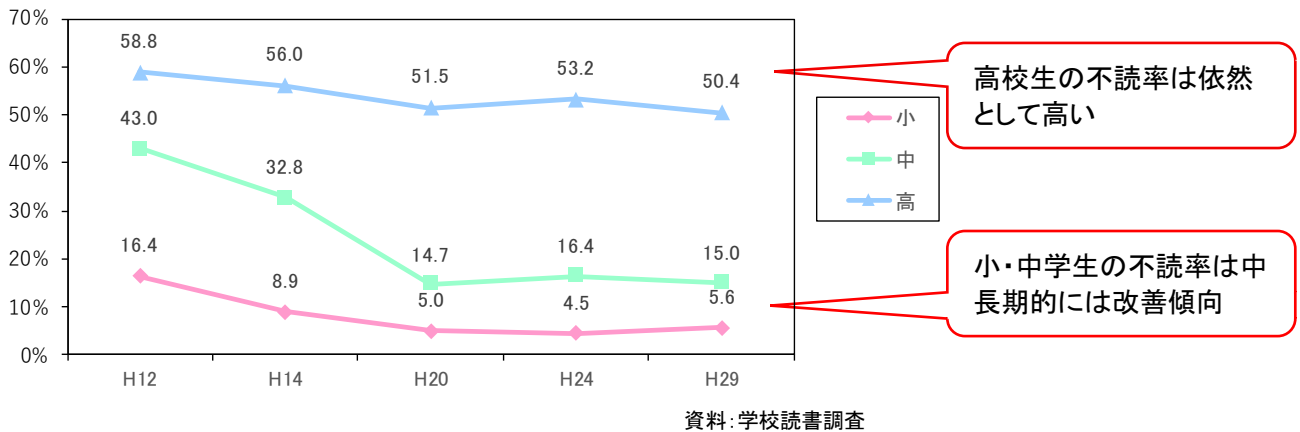
平成 13 年施行の「子どもの読書活動の推進に関する法律」には、すべての子どもがあらゆる機会と場所において、自主的な読書活動ができるよう、環境整備を積極的に行うことが定められており、同法に基づき平成 30 年 4 月に策定された第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」では、以下の方向性が示されています。

第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」のポイント



第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」関連資料から見た課題

■ 不読率の推移



3 本市の子どもの読書活動推進等に関する既定計画における取り組み状況の整理

本市の既定計画では、子どもの読書活動の推進や子ども図書館の整備について、次のように示されています。

計画名・ 計画期間	計画内容								
浦安市総合計画 基本構想 平成 11 年 12 月 議決 目標年次 平成 32 年度	都市像 2. 創造と交流で築く市民文化都市 施策 2- (2) 創造性と個性を育てる生涯学習を推進する 市民一人ひとりが、生き生きと充実した人生を送るためには、それぞれのライフステージにおける自己研さんと生活の向上を目指した学習活動が求められます。また、子どもたちが個性豊かに伸びやかに、育まれていくことが必要です。このため、市民が生涯にわたって自由に学び、心豊かな充実した生活を送れるよう生涯学習の環境づくりを進めます。 また、子どもたちが常に希望と活力にあふれ、夢を抱いて成長できるよう、学校、家庭、地域が一体となり、学校教育、家庭、地域教育の推進、青少年の健全育成を図るなど、個性を尊重し創造性や豊かな人間性を育む教育を推進します。								
浦安市総合計画 第 2 期基本計画 第 3 次実施計画 平成 26 年度 修正 ） 平成 29 年度	都市像 2. 創造と交流で築く市民文化都市 具体的施策 2. 魅力ある学校をつくる (3) 一人ひとりの個性が輝く学校をつくる 事業① 今日の教育課題に対応する教育の推進 事業③ 豊かな心と健やかな体の育成 <table border="1" data-bbox="411 1178 1442 1460"> <thead> <tr> <th data-bbox="411 1178 611 1227">事業名</th> <th data-bbox="611 1178 1442 1227">浦安市子ども読書活動推進事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="411 1227 611 1460">事業内容</td> <td data-bbox="611 1227 1442 1460">浦安市子ども読書活動推進計画（第二次）に基づき、市立図書館との連携を図り、読書環境の整備と充実、家庭・地域・学校の連携、情報の発信と啓発に努めます。各小・中学校では、豊かな読書活動と国語科を中心とした学習における図書室利用を推進します。</td> </tr> </tbody> </table> 具体的施策 3. 楽しみと生きがいを感じる生涯学習の充実を図る (1) いつでも学習できる機会の充実を図る 事業② 充実した学習情報・機会の提供 <table border="1" data-bbox="411 1644 1442 1809"> <thead> <tr> <th data-bbox="411 1644 611 1693">事業名</th> <th data-bbox="611 1644 1442 1693">図書館サービス拡充事業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="411 1693 611 1809">事業内容</td> <td data-bbox="611 1693 1442 1809">中央図書館及び全分館の月曜開館を行うとともに、分館の利用時間を平日 18 時まで延長し、図書館サービスの拡充を図ります。</td> </tr> </tbody> </table>	事業名	浦安市子ども読書活動推進事業	事業内容	浦安市子ども読書活動推進計画（第二次）に基づき、市立図書館との連携を図り、読書環境の整備と充実、家庭・地域・学校の連携、情報の発信と啓発に努めます。各小・中学校では、豊かな読書活動と国語科を中心とした学習における図書室利用を推進します。	事業名	図書館サービス拡充事業	事業内容	中央図書館及び全分館の月曜開館を行うとともに、分館の利用時間を平日 18 時まで延長し、図書館サービスの拡充を図ります。
事業名	浦安市子ども読書活動推進事業								
事業内容	浦安市子ども読書活動推進計画（第二次）に基づき、市立図書館との連携を図り、読書環境の整備と充実、家庭・地域・学校の連携、情報の発信と啓発に努めます。各小・中学校では、豊かな読書活動と国語科を中心とした学習における図書室利用を推進します。								
事業名	図書館サービス拡充事業								
事業内容	中央図書館及び全分館の月曜開館を行うとともに、分館の利用時間を平日 18 時まで延長し、図書館サービスの拡充を図ります。								

計画名・ 計画期間	計画内容														
浦安まちづくり 3か年計画 (実施計画) 平成30年度 ↳ 平成32年度	施策事業分野3. 子ども・子育て・教育 【施策4】多様な学びの推進 〔計画事業〕 子どもの自主的な読書活動や交流を促進する場となる(仮称)子ども図書館の整備に取り組みます。 <table border="1" data-bbox="411 506 1444 651"> <thead> <tr> <th data-bbox="411 506 735 577" rowspan="2">計画事業名</th> <th colspan="3" data-bbox="740 506 1444 539">事業内容</th> </tr> <tr> <th data-bbox="740 546 970 577">平成30年度</th> <th data-bbox="975 546 1204 577">平成31年度</th> <th data-bbox="1209 546 1444 577">平成32年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="411 577 735 651">(仮称)子ども図書館整備事業</td> <td data-bbox="740 577 970 651">基本構想策定</td> <td data-bbox="975 577 1204 651">基本設計</td> <td data-bbox="1209 577 1444 651">実施設計</td> </tr> </tbody> </table>				計画事業名	事業内容			平成30年度	平成31年度	平成32年度	(仮称)子ども図書館整備事業	基本構想策定	基本設計	実施設計
計画事業名	事業内容														
	平成30年度	平成31年度	平成32年度												
(仮称)子ども図書館整備事業	基本構想策定	基本設計	実施設計												
浦安市まち・ひと・しごと創生 総合戦略 平成27年度 ↳ 平成31年度	【基本目標1】結婚・妊娠・出産・子育ての希望がかなう 施策⑤ 子どもたちが、将来に夢と希望を持って成長できる環境づくり ささまざまな可能性を秘めた子どもたちの未来のために、子どもの豊かな個性と想像力を伸ばす機会を設け、生きる力を育む学校教育環境の充実を図ります。														
浦安市教育ビジョン 平成27年度 ↳ 平成31年度	基本理念 未来に向かって夢を持ち、豊かに生きる浦安っ子の育成 ○めざす子ども像1 自ら学び、身に付けた知識や技能を活用する子ども ・学ぶことの楽しさや喜びを実感し、自ら学び続けている。 ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている。 ・学んだことを活用し、考え、判断し、表現している。 ○めざす子ども像2 自分や他人のよさを認め、互いに尊重し合う子ども ・自分や他人のよさがわかり、他人を思いやる心を持っている。 ・自他のちがいを認め、生命や人権を尊重する心を持っている。 ○めざす子ども像3 いのちを大切にし、健康でたくましい子ども ○めざす子ども像4 適切に表現する力を身に付け、人や社会に積極的にかかわる子ども ○めざす子ども像5 我が国やふるさと浦安に誇りを持ち、異文化を大切にする子ども めざす子ども像や具体的な子どもの姿の中に、読書活動から培われる多くの姿が見える。														

計画名・ 計画期間	計画内容
浦安市生涯学習 推進計画 平成 25 年度 〽 平成 29 年度	<p>基本施策Ⅰ 多様な学習ニーズに応える学習機会の充実 市民のニーズに応じた学習機会の充実や情報の提供、相談体制の充実を図ります。また、学習活動をより活発に発展させるとともに、いつでも学習ができる場となるよう、生涯学習施設の運営の充実を図ります。</p> <p>主な施策内容 I－3. 公民館・図書館の運営の充実 (3) 図書館の運営の充実 (4) 図書館施設の整備</p> <p>基本施策Ⅱ ライフステージに応じた学習機会の提供 生涯学習は、それぞれのライフステージによって学習課題が変化していくものと考えます。このため、ライフステージにおける主要な課題に応じたきめ細かな学習が主体的に行える学習機会の提供に努めます。</p> <p>主な施策内容 II－2. 青少年の健全育成の推進 (3) 子どもの読書環境の整備</p>
浦安市子ども読 書活動推進計画 (第二次) 平成 26 年度 〽 概ね 5 年間	<p>具体的方策 2. 市立図書館における子どもの読書活動の推進 (2) 子どもの読書活動を推進するための市立図書館の取り組み ア 子ども読書環境の整備 子どもに質の高い読書を提供するために、良質な図書を揃えるほか、幅広い分野の新刊図書について選定の上、購入を行い、蔵書の蓄積を図っていきます。さらに館内の設備や機能の見直しを含め、より利用しやすい施設整備を進めます。</p> <p>イ 子どもたちへのサービス 子どもたちへの貸し出しサービスについては、資料の充実、わかりやすい配架、展示の工夫などを進め、さらに充実させていきます。 来館した子どもたちがより本に親しみ、読書習慣を身につけるための積極的な働きかけをさらに進め、一人一人の興味や関心、読書段階に合わせたきめ細かい読書支援に努めます。 読書離れがみられる中高生のための利用案内や事業を行い、不読率の低下を目指すとともに、中学生・高校生の利用を促進します。 障がいを持つ子どもや、入院中の子ども、外国語を母語とする子どもたちへのサービスの充実を図ります。</p>



- ・ 現行の総合計画や教育ビジョン、生涯学習推進計画等の中では、目指すべき都市像や子ども像が掲げられ、その目標実現のための施策、事業の方向性が示されていますが、現在、これらの目標年次が迫り、それぞれ改訂作業が進められています。このため、この基本構想の考え方をこれらの計画に位置づけていくとともに、整合を図っていく必要があります。
- ・ 現行の子ども読書活動推進計画の計画期間は、平成 26 年 4 月より概ね 5 年間となっており、見直し時期を迎えています。今後、総合計画をはじめ、教育ビジョンや生涯学習推進計画の改定が予定されていることから、これらの計画との整合を図りながら策定を進める必要があります。

4 本市の人口動向

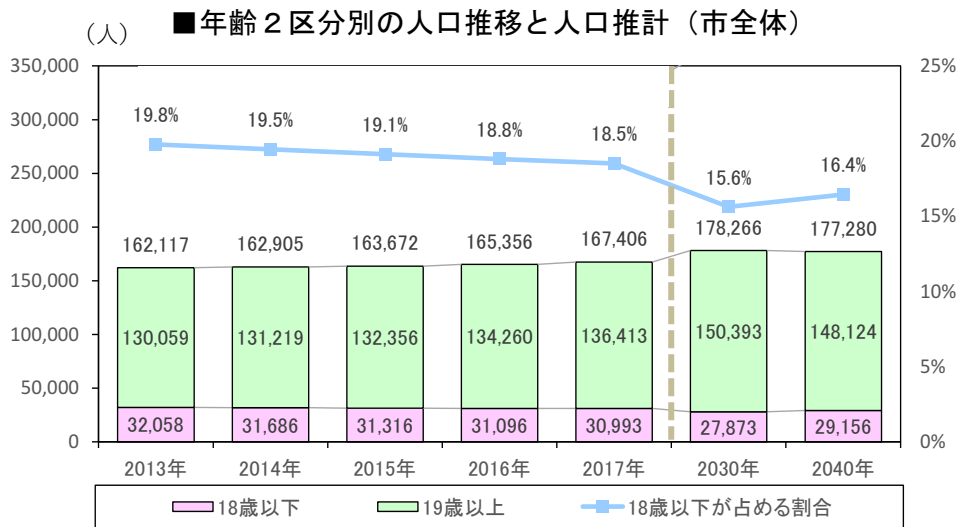
(1) 市全体の人口

① これまでの人口推移

- ・ 総人口は、2013年から2017年にかけて増加しています。これに対し、18歳以下の人口は減少しています。
- ・ 総人口のうち18歳以下の人口が占める割合は、2013年から2017年にかけてわずかながら減少しています。

② 今後の人口推計

- ・ 将来推計人口をみると、総人口は2030年にかけて増加していますが、その後、緩やかに減少すると予測しています。
- ・ 18歳以下の人口及び総人口のうち18歳以下が占める割合は、2030年にかけて減少し、その後増加すると予測しています。



※浦安市人口推計

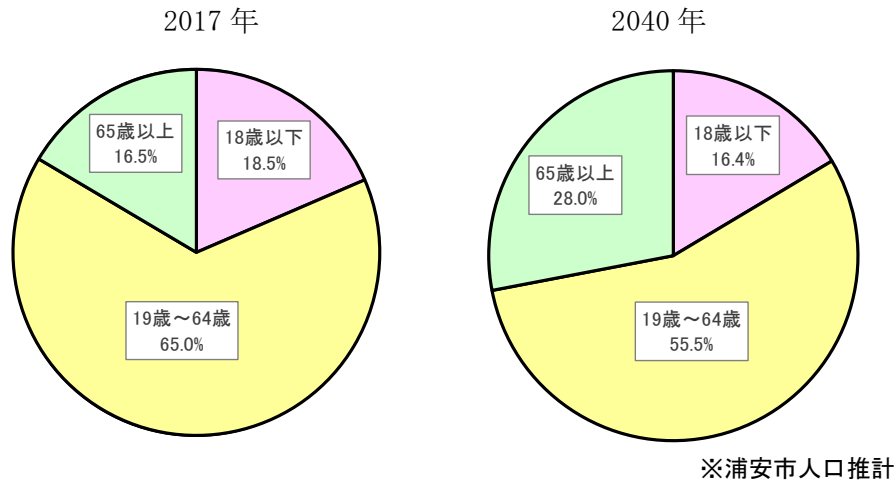
■ 年齢2区分別の推移と人口推計に関する指数変動（市全体）

2013年を100としたときの、各年の指数を示す。(赤は前年比増)

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2030年	2040年
18歳以下	100.0	98.8	97.7	97.0	96.7	86.9	90.9
19歳以上	100.0	100.9	101.8	103.2	104.9	115.6	113.9
総数	100.0	100.5	101.0	102.0	103.3	110.0	109.4

※浦安市人口推計

■年齢3区分別の人口構成比（市全体）



(2) 18歳以下の人口

① これまでの18歳以下の年齢別人口推移

- ・ 2013年と2017年の18歳以下の年齢別人口を比較すると、13歳～15歳、16歳～18歳は増加しており、0歳～6歳、7歳～12歳は減少しています。

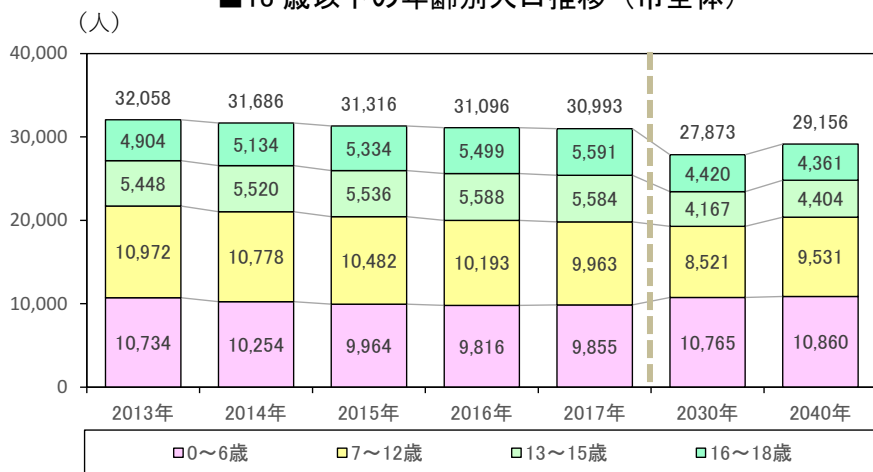
② 今後の18歳以下の年齢別人口推計

- ・ 2017年と2040年の18歳以下の年齢別人口を比較すると、0～6歳は増加しますが、7歳以上の人口は減少すると予測しています。

③ 今後の18歳以下の年齢別人口構成比

- ・ 2017年と2040年の18歳以下の年齢別人口推計の構成比を比較すると、0歳～6歳と7歳～12歳の割合は増加しますが、13歳～15歳と16歳～18歳の割合は減少すると予測しています。

■18歳以下の年齢別人口推移（市全体）



■18歳以下の年齢別人口推計の指数変動（市全体）

2013年を100としたときの、各年の指数を示す。（赤は前年比増）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2030年	2040年
0～6歳	100.0	95.5	92.8	91.4	91.8	100.3	101.2
7～12歳	100.0	98.2	95.5	92.9	90.8	77.7	86.9
13～15歳	100.0	101.3	101.6	102.6	102.5	76.5	80.8
16～18歳	100.0	104.7	108.8	112.1	114.0	90.1	88.9
総数	100.0	98.8	97.7	97.0	96.7	86.9	90.9

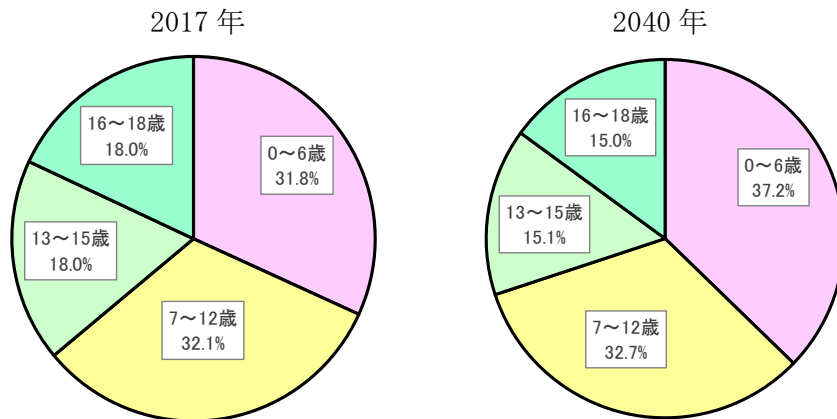
※浦安市人口推計

■18歳以下の年齢別人口推計の構成比（市全体）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2030年	2040年
0～6歳	33.5%	32.4%	31.8%	31.6%	31.8%	38.6%	37.2%
7～12歳	34.2%	34.0%	33.5%	32.8%	32.1%	30.6%	32.7%
13～15歳	17.0%	17.4%	17.7%	18.0%	18.0%	14.9%	15.1%
16～18歳	15.3%	16.2%	17.0%	17.7%	18.0%	15.9%	15.0%
総数	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※浦安市人口推計

■18歳以下の年齢別人口構成比（市全体）

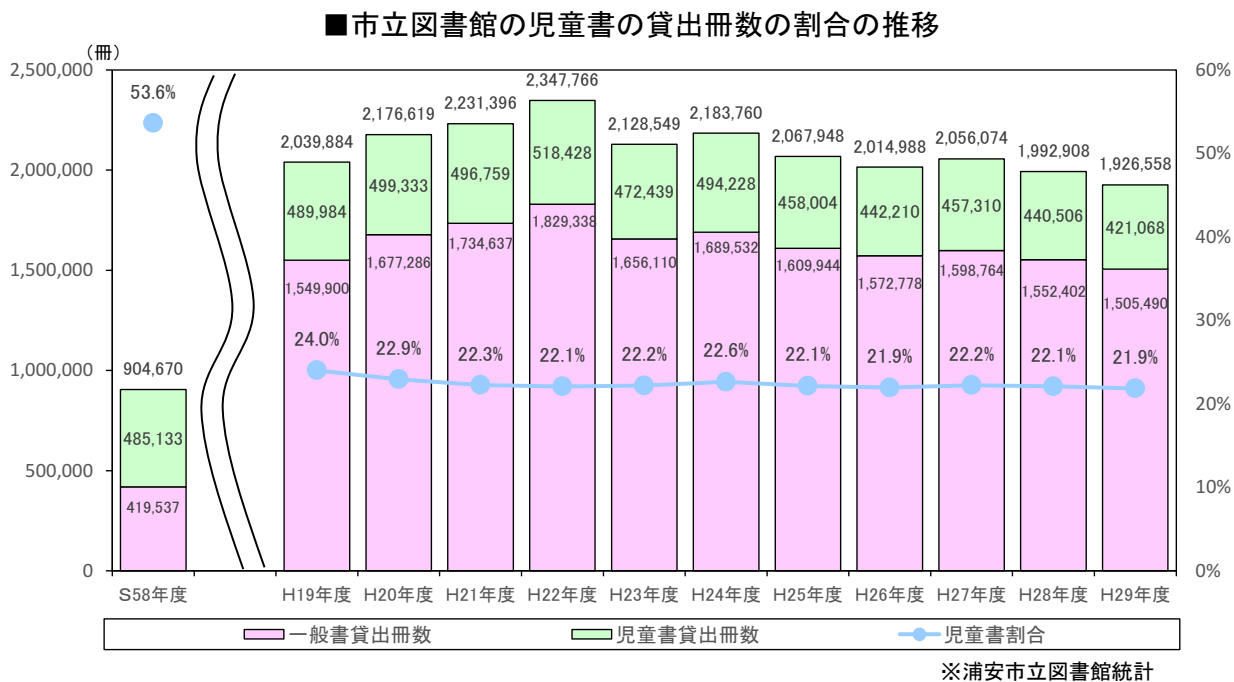


※浦安市人口推計

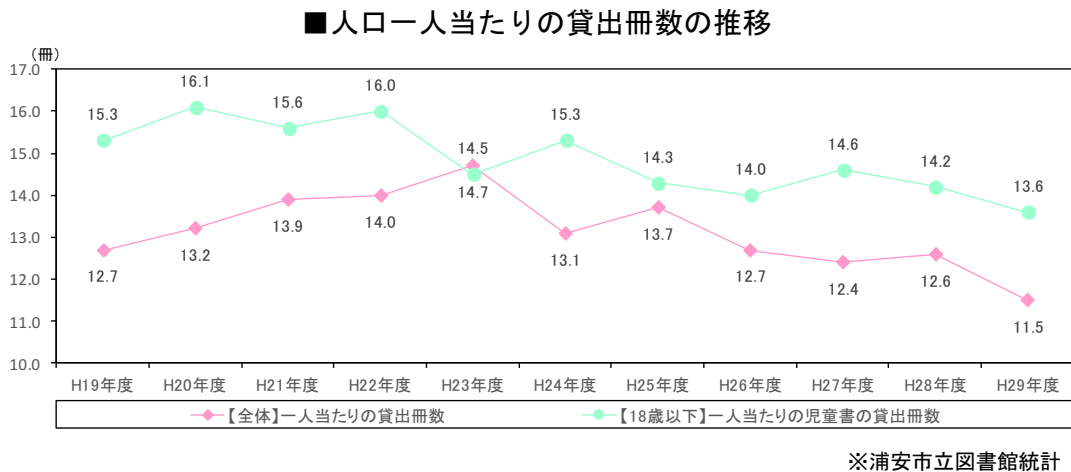
5 本市の図書館の現状と課題

(1) 市立図書館の児童書の貸出状況

- 平成 19 年度から 29 年度の貸出冊数の推移をみると、一般書・児童書ともに、平成 22 年度をピークとして、東日本大震災が発生した平成 23 年度以降、減少傾向となっています。
- 貸出冊数全体に占める児童書の割合については、平成 19 年度以降、微減傾向で推移しています。



- 18 歳以下の人口一人当たりの児童書の貸出冊数は、平成 19 年度の 15.3 冊から、平成 29 年度は 13.6 冊と減少傾向となっています。



(2) 市立図書館の児童サービス関連の事業・行事の実施状況

- 児童サービス関連の事業や行事について、平成25年度と29年度で比較すると、「えほんのじかん」「おはなし会」「図書館クラブ」「夏休みおはなし会」「としよかんの冬のおたのしみ会」「分館えほんのじかんスペシャル」については、開催回数、延参加者数ともに減少しています。特に、「おはなし会」「夏休みおはなし会」については、参加者数が大きく減少しています。
- 一方で、「絵本のよみきかせ入門講座」や「新春えほんのじかん」等、参加者数が大きく増加している事業や行事もみられます。

■市立図書館で実施している児童サービス関連の事業・行事

事業名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	H25⇒H29
えほんのじかん	開催回数(回)	721	640	650	607	607	84.2%
	延参加者数(人)	6,494	5,939	6,234	5,693	5,374	82.8%
おはなし会	開催回数(回)	22	21	21	22	12	54.5%
	延参加者数(人)	137	82	115	95	65	47.4%
赤ちゃんと楽しむわらべうたの会	開催回数(回)	24	24	24	24	24	100.0%
	延参加者数(人)	364	428	342	418	264	72.5%
ブックスタート絵本講座	開催回数(回)	48	48	48	47	48	100.0%
	延参加者数(人)	649	647	674	624	613	94.5%
子ども映画会	開催回数(回)	-	24	24	25	8	-
	延参加者数(人)	-	1,214	1,145	732	319	-
お父さんもいっしょにえほんのじかん	開催回数(回)	-	-	-	-	12	-
	延参加者数(人)	-	-	-	-	142	-
おひざのうでえほんのじかん	開催回数(回)	-	-	5	5	5	-
	延参加者数(人)	-	-	62	59	72	-
新春えほんのじかん	開催回数(回)	2	3	3	3	3	150.0%
	延参加者数	32	24	26	51	45	140.6%
春休みえほんのじかん	開催回数(回)	2	2	-	2	2	100.0%
	延参加者数	34	40	-	29	13	38.2%
分館えほんのじかんスペシャル	開催回数(回)	8	6	9	8	6	75.0%
	延参加者数(人)	171	115	188	179	167	97.7%
県民の日／えほんど映画を楽しもう／えほんのじかんスペシャル	開催回数(回)	9	9	8	15	12	133.3%
	延参加者数(人)	206	140	255	278	208	101.0%
夏休みおはなし会	開催回数(回)	10	9	9	4	3	30.0%
	延参加者数(人)	76	47	52	33	13	17.1%
冬のおはなし会	開催回数(回)	2	3	2	2	-	-
	延参加者数(人)	25	37	15	11	-	-
科学で遊ぼう	開催回数(回)	2	2	2	2	2	100.0%
	延参加者数(人)	68	70	64	74	69	101.5%
夏休み子ども防災教室in図書館	開催回数(回)	-	-	1	1	1	-
	延参加者数(人)	-	-	60	92	41	-
としよかんの冬のおたのしみ会	開催回数(回)	2	2	2	2	1	50.0%
	延参加者数(人)	175	171	110	193	125	71.4%
としよかんのちいさなおたのしみ会 ※H26年度までは「ちいさなおはなし会」	開催回数(回)	7	6	6	7	7	100.0%
	延参加者数(人)	142	114	143	105	110	77.5%
図書館クラブ	開催回数(回)	8	4	4	5	4	50.0%
	延参加者数(人)	41	42	34	41	37	90.2%
絵本のよみきかせ入門講座	開催回数(回)	2	2	2	2	2	100.0%
	延参加者数(人)	53	63	36	70	76	143.4%
親子で楽しむ絵本講座	開催回数(回)	6	6	6	6	6	100.0%
	延参加者数(人)	166	134	137	135	159	95.8%
子どもの本の講座	開催回数(回)	1	1	1	1	1	100.0%
	延参加者数(人)	100	63	147	80	81	81.0%
お父さんもいっしょに絵本講座 ※H25年度は「お父さんの絵本講座」	開催回数(回)	1	2	2	2	-	-
	延参加者数(人)	4	31	31	54	-	-

※浦安市立図書館統計

- ・ 類縁機関へのサービスについては、「ストーリーテリング」「その他（来館閲覧利用等）」を除いたすべてのサービスで、平成 25 年度と比較して平成 29 年度は、開催回数、延参加者数ともに減少しています。

■類縁機関（幼稚園・保育園・学校等）へのサービス

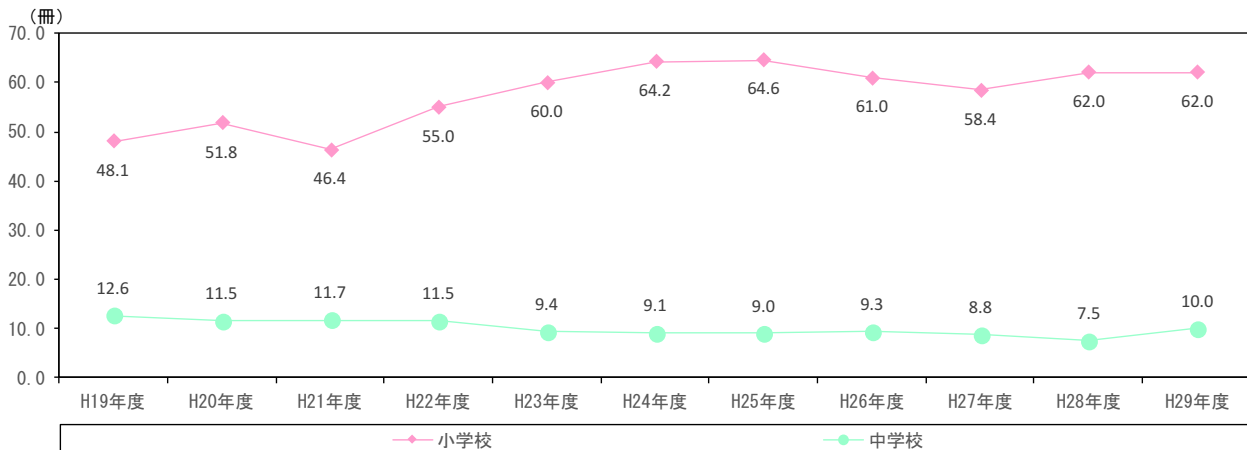
事業名		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	H25⇒H29
よみきかせ	開催回数（回）	413	439	376	391	329	79.7%
	延参加者数（人）	8,649	9,264	7,425	7,908	6,692	77.4%
ストーリーテリング	開催回数（回）	347	389	377	438	388	111.8%
	延参加者数（人）	10,505	11,325	11,104	12,365	11,403	108.5%
ブックトーク	開催回数（回）	63	85	90	56	49	77.8%
	延参加者数（人）	2,059	2,789	2,860	1,778	1,516	73.6%
利用案内	開催回数（回）	44	39	29	31	32	72.7%
	延参加者数（人）	434	484	414	300	354	81.6%
講師派遣	開催回数（回）	11	16	10	11	6	54.5%
	延参加者数（人）	252	418	306	250	130	51.6%
その他	開催回数（回）	78	155	149	292	212	271.8%
	延参加者数（人）	2,183	3,178	3,138	4,605	3,855	176.6%

※浦安市立図書館統計

（3）学校図書館の状況

- ・ 市では、平成 7 年までに学校司書をすべての小・中学校（平成 7 年：20 校⇒現在：26 校）に配置し、児童・生徒の読書活動の推進に取り組んでいます。
- ・ 学校図書館の児童・生徒一人当たりの貸出冊数の推移をみると、小学校では平成 19 年度以降、増加傾向となっています。中学校では平成 28 年度まで減少傾向で推移していましたが、平成 29 年度は増加に転じています。
- ・ 学校図書館の利用状況をみると、小学校では、国語の時間に読書の時間が組み込まれていることから、利用率が高くなっています。

■学校図書館の児童・生徒一人当たりの貸出冊数の推移



資料：浦安市学校図書館利用状況報告

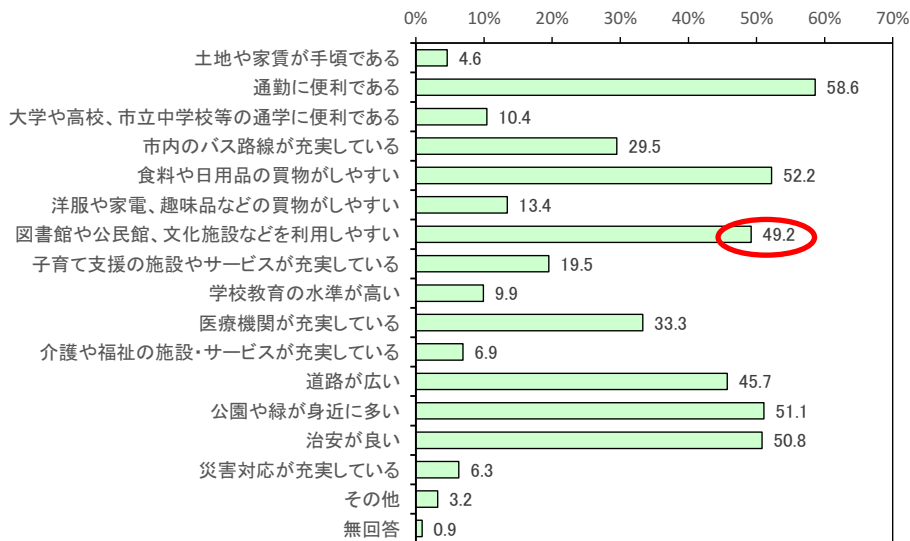
6 既存の各種意識調査からみた課題

市で実施している各種意識調査のうち、「市政に関する市民意識調査（平成 26・30 年）」「浦安市小・中学校生活実態調査（平成 24・26・28 年度）」「保護者及び教員の教育に関する意識調査（平成 25・27・29 年度）」より、関連する設問の回答を取り上げました。

①市民の図書館等の文化施設・環境に対する評価

- 浦安市の住みやすさの要因のひとつに文化施設の利用のしやすさが挙げられており、本市の魅力として図書館等の文化施設のさらなる充実が求められています。

■住みやすい理由

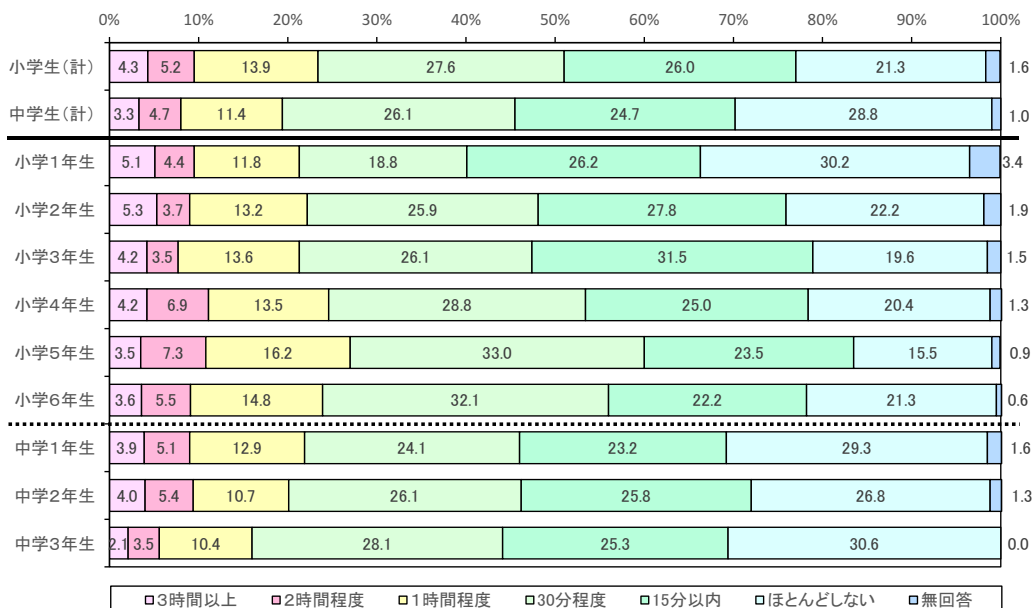


資料：市政に関する市民意識調査（平成 30 年）

②児童・生徒の読書の状況

- 学校段階・学年が上がるにつれ、読書離れや活字離れが進む傾向がみられることから、早い時期に読書習慣を身につけるとともに、成長に応じた継続的な取り組みが求められています。

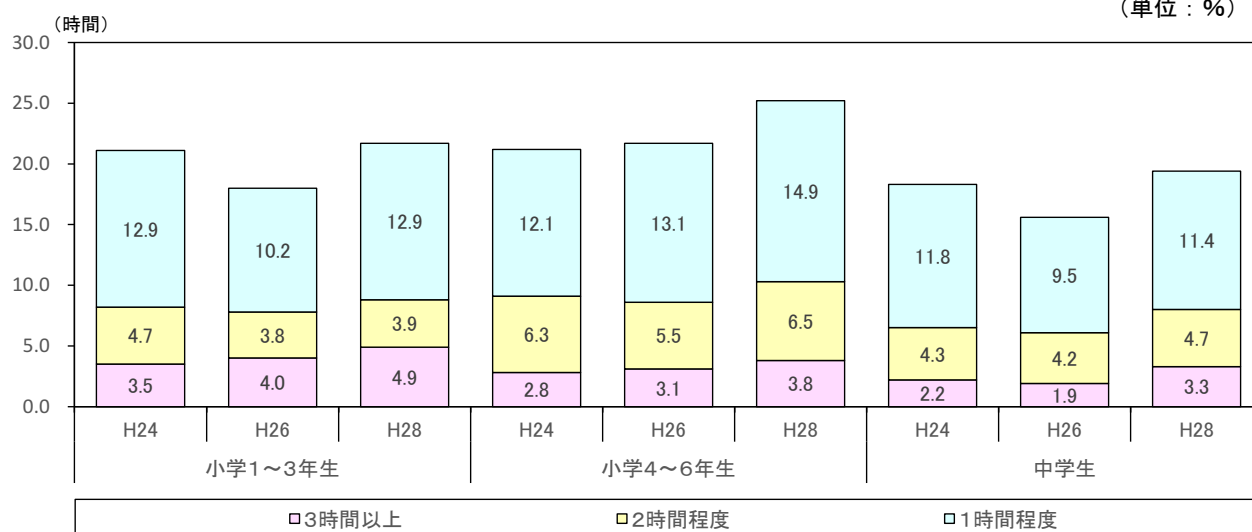
■学校の授業時間以外での読書の状況



資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成 28 年度）

■読書の時間の推移

(単位：%)



資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成24・26・28年度）

③学校教育における学校図書館の利用状況

- ・ 中学校は、小学校に比べ学校図書館の利用が低いことから、中学生の読書に対する意識を高め、ていく必要があります。

■教員が授業や学習指導で学校図書館の利用を心がけている割合

(単位：%)

	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
平成25年	83.7	72.1	84.0	70.7	68.2	59.6	23.8	17.5	20.9
平成27年	86.5	90.2	92.2	91.5	96.3	87.0	42.5	44.7	40.5
平成29年	82.2	91.7	95.9	87.2	82.0	78.7	17.9	34.2	24.4

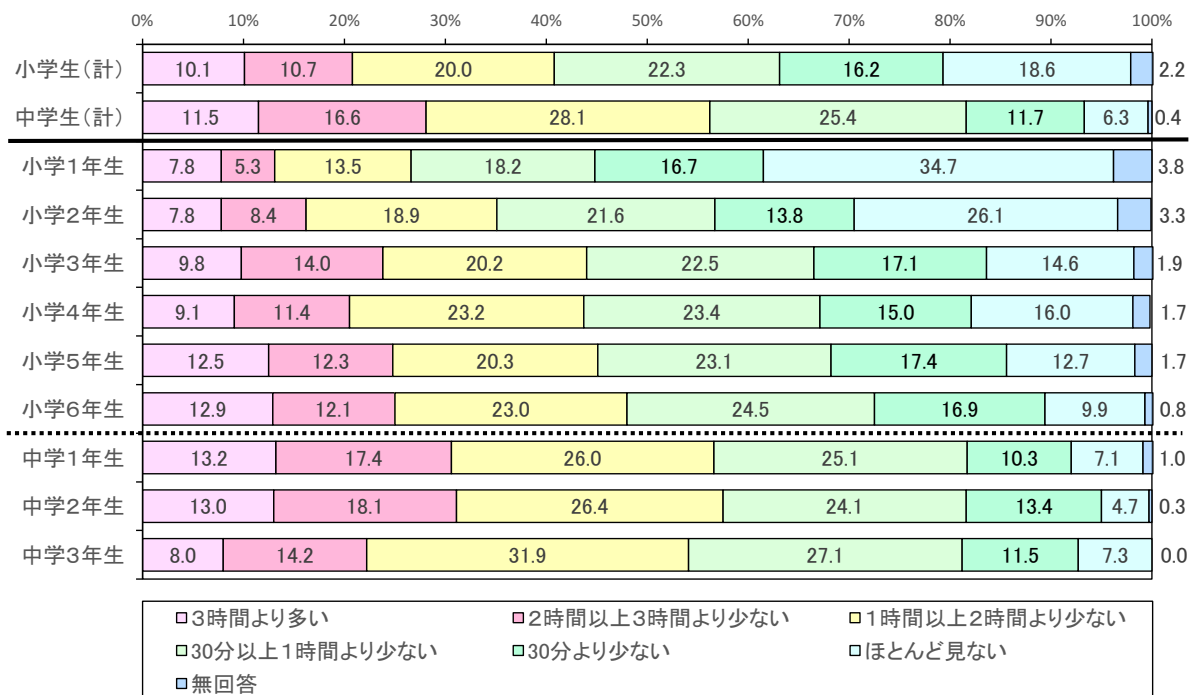
(は80.0%以上)

資料：保護者及び教員の教育に関する意識調査（平成25・27・29年度）

④子どもたちの生活実態

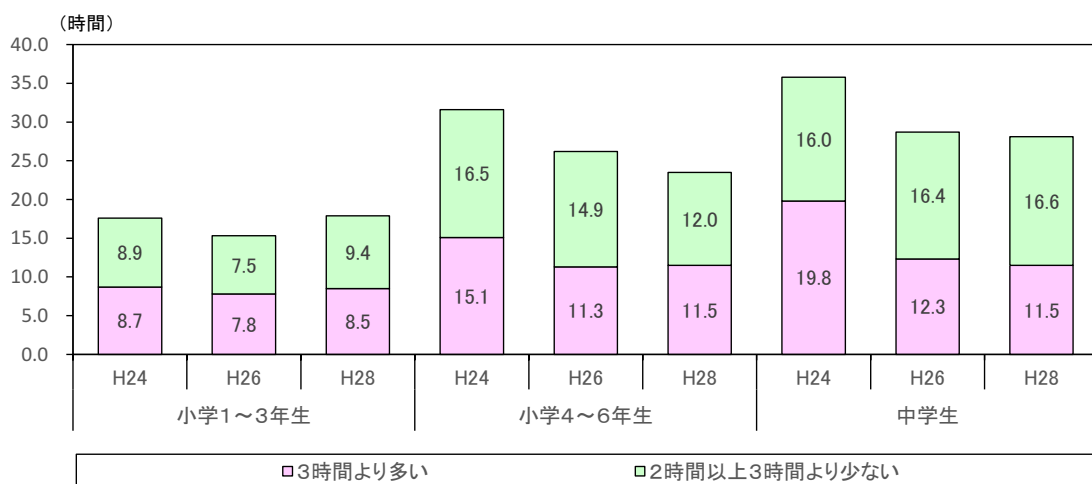
- インターネットや携帯電話などの情報機器の普及により、子どもたちの生活環境が大きく変化する中で、どのように子どもの読書活動を推進するのか、検討する必要があります。

■テレビやビデオ・DVD・ネット動画を見る時間（学校がある日の1日当たり）



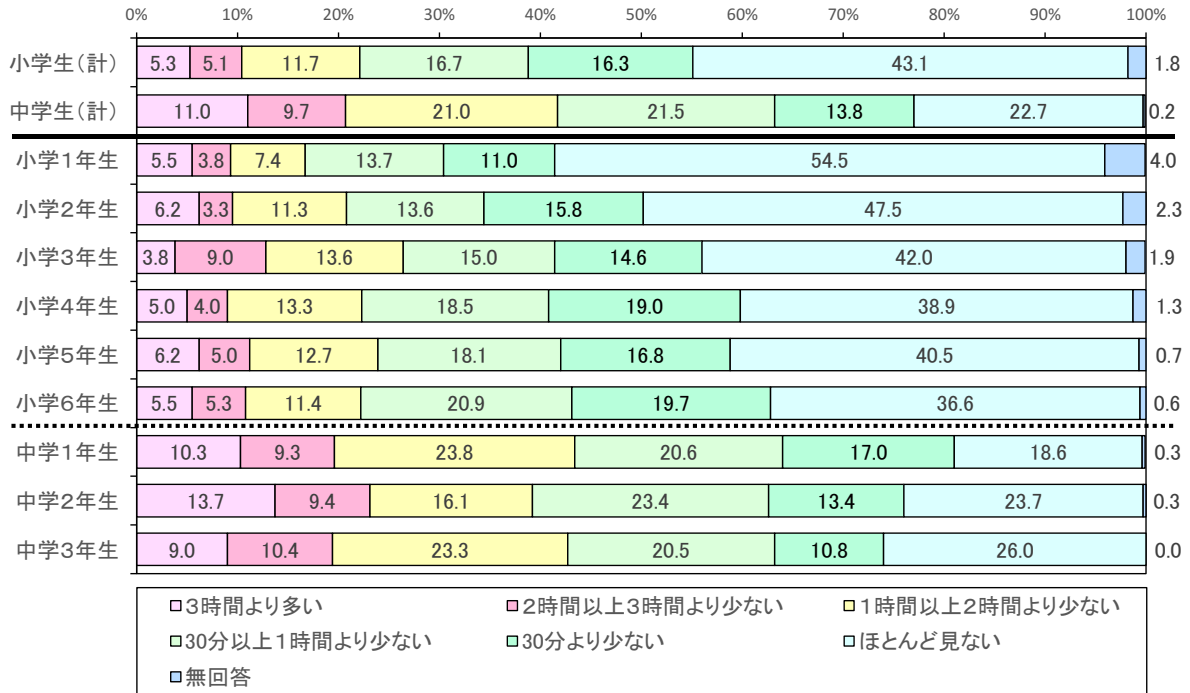
資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成28年度）

■テレビやビデオ・DVD・ネット動画を見る時間（学校がある日の1日当たり）の推移



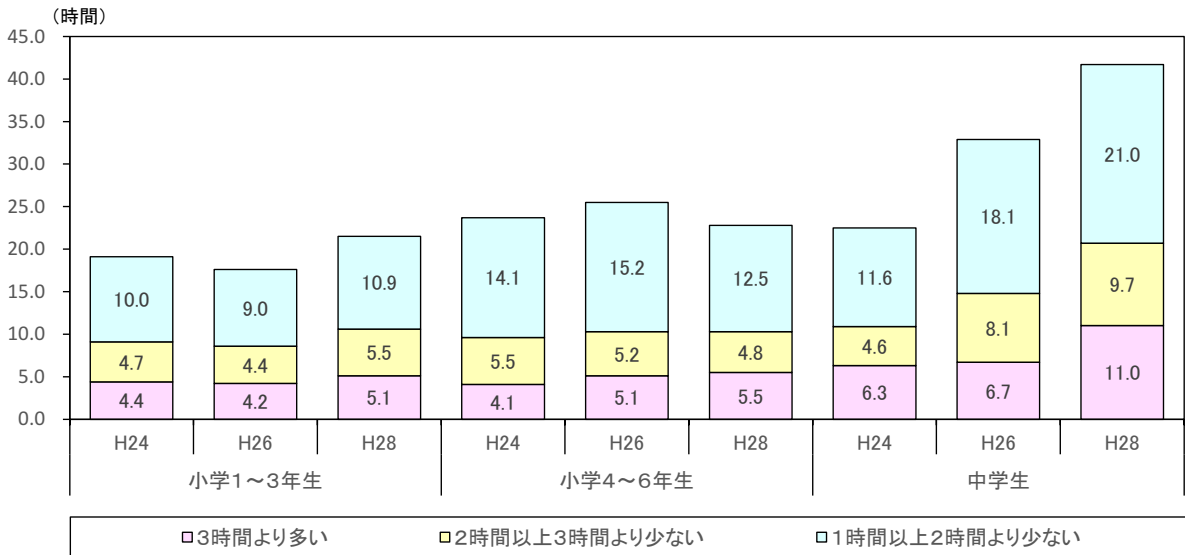
資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成24・26・28年度）

■テレビゲームをする時間（学校がある日の1日当たり）



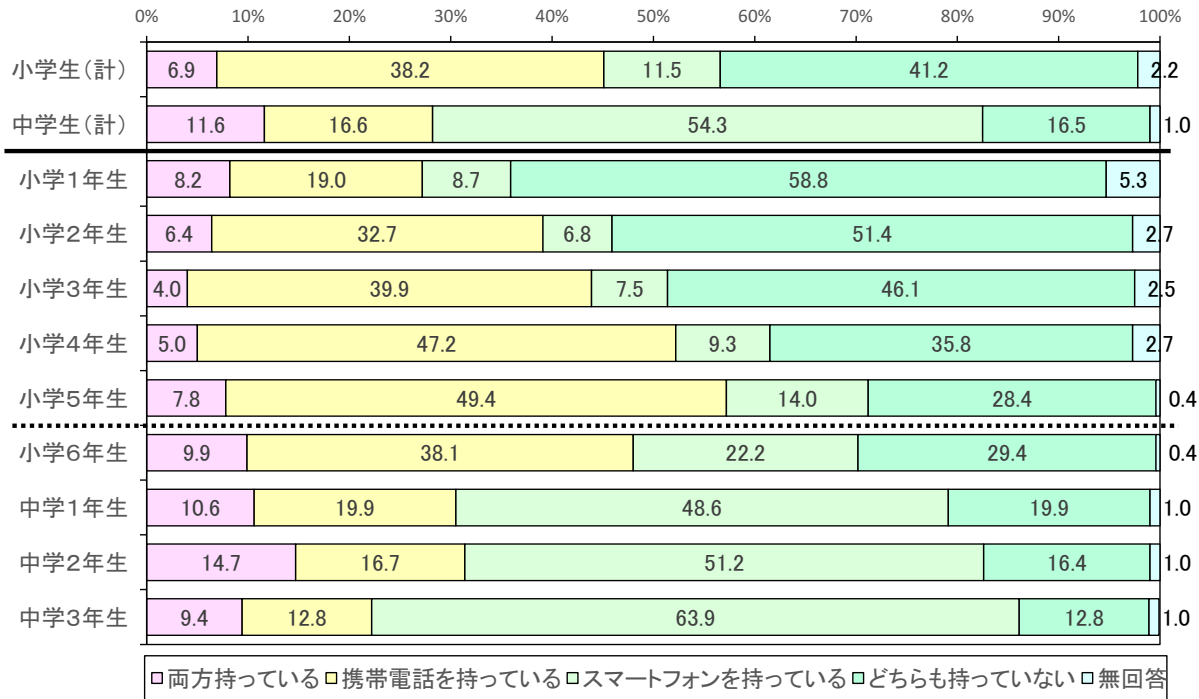
資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成28年度）

■テレビゲームをする時間（学校がある日の1日当たり）の推移



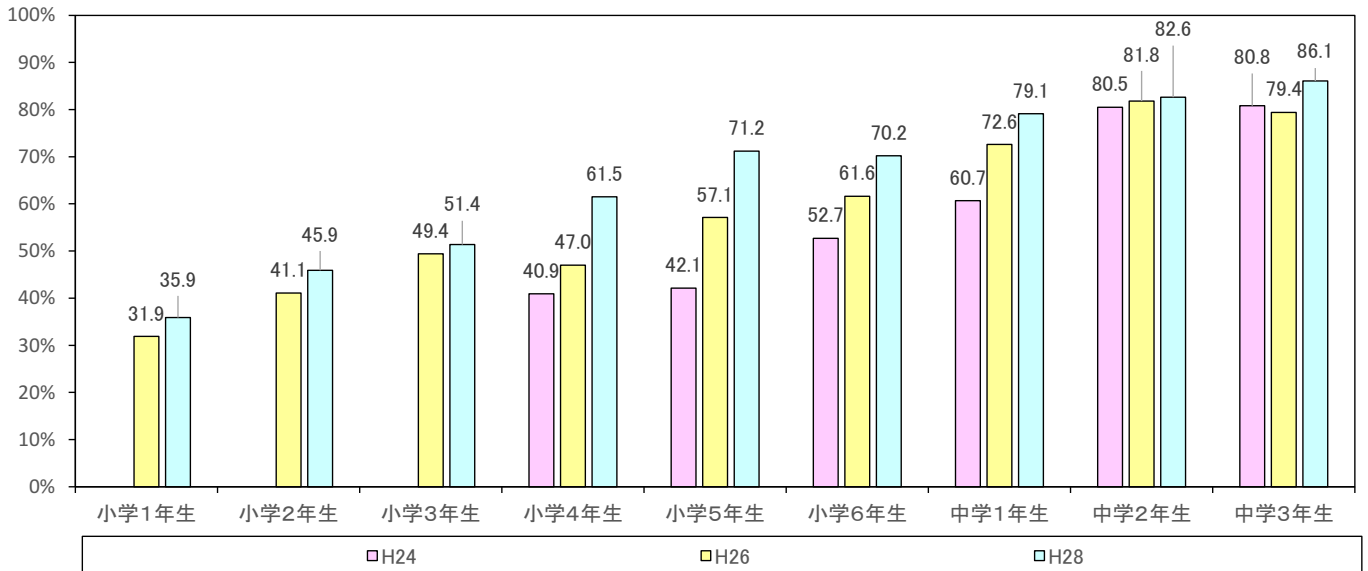
資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成24・26・28年度）

■携帯電話（スマートフォン）の所有率



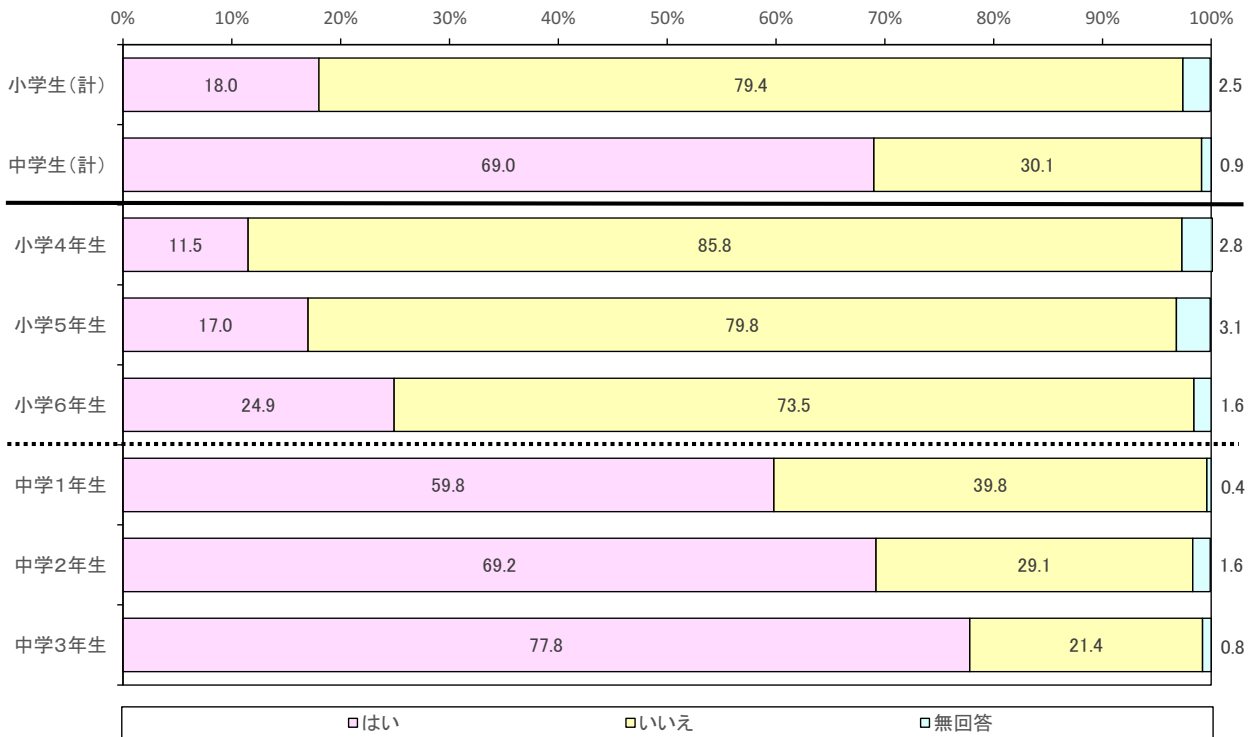
資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成 28 年度）

■携帯電話（スマートフォン）の所有率の推移



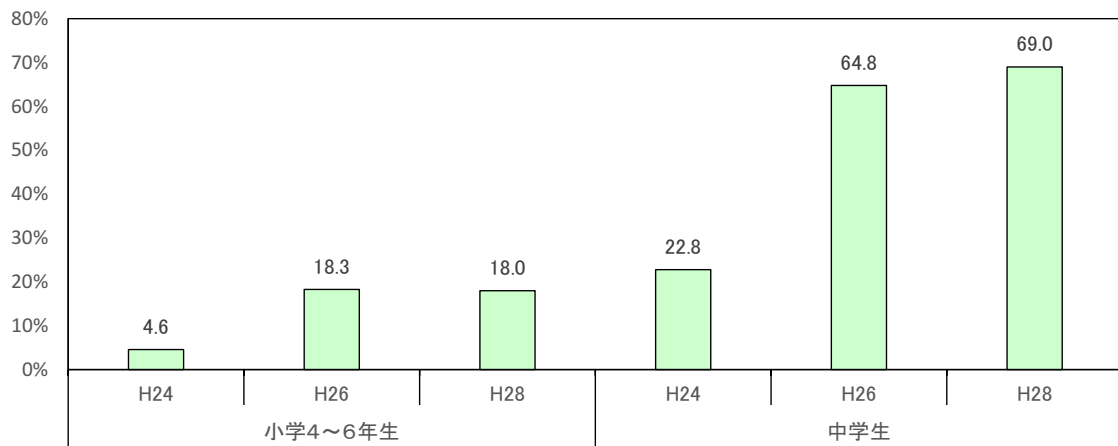
資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成 24・26・28 年度）

■ SNS/プロフの使用の有無



資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成 28 年度）

■ SNS/プロフの使用状況の推移



資料：浦安市小・中学校生活実態調査（平成 24・26・28 年度）

7 子どもの読書活動に取り組む団体からの意見

(1) 実施概要

市内で子どもの読書活動の推進に取り組む団体から、市立図書館の児童サービスや活動を通じて日頃感じていること、子ども図書館への要望などについて意見を聴取した。

(浦安おはなしの会・浦安市図書館友の会・すみれ・南小学校図書館ボランティア友の会・ルフラン (五十音順))

(2) 意見聴取のまとめ

①市立図書館の児童サービスや各団体の活動を通じて感じること

- ・ 活動の中では、子どもの読書離れはあまり感じられないが、本が嫌いな子や本から離れている子ども、家庭で読み聞かせをしてもらっていない子どもがいるので、そういった子どもへの対応が必要である。
- ・ 子どもたちに読書に興味や関心を持ってもらうためには、イベントの開催や展示、本の見せ方の工夫、アウトリーチなどによる、きっかけづくりや環境整備が重要である。
- ・ 子どもの読書活動を推進し、保護者や子どものニーズの多様化に対応していくためには、子どもの読書活動を推進する人材の育成が重要であるとともに、ボランティアとの連携や市民との協働の場や機会が必要である。
- ・ 市立図書館の児童サービスが手薄になっている印象があるため、児童サービスに携わる司書の確保と育成が必要である。

②子ども図書館への要望

- ・ これまでどおり、図書館や学校図書館、地域等と連携を図ることが重要であるが、子ども図書館では、現在実施できていない児童サービスや、子ども図書館独自の新しい取り組みが必要である。
- ・ さまざまな情報機器が出ているが、紙の文化を大切にしてほしい。子どもが紙の本に触れ、のびのびと気兼ねなく利用できる図書館が望ましい。
- ・ 施設や設備については、子どもがゆったりとくつろげるスペースや発達段階に応じた機能や設備を備えたスペースを確保してほしい。飲食可能な場所や中・高校生が利用できる静かな学習室等、活動内容に応じたスペースが必要である。
- ・ 機能やサービスについては、子どもの利便性や安全面に配慮したサービスや、地域の産業や歴史、文化等、郷土を知るための蔵書や展示、子どもが本に興味を持つような蔵書や書架のレイアウト、イベントの開催など、子どもの目線に立ったサービスが必要である。また、読み聞かせの異年齢交流をはじめ、団体の活動やスキルが発揮できる場が望まれる。
- ・ 子ども図書館の立地条件として、おさんぽバスや路線バスの運行など、子どもの利便性を考慮した場所が望ましい。
- ・ 市立図書館の児童サービスに携わる人材の確保と育成が重要である。

8 今回実施した意識調査の結果から見た課題

(1) 子どもの読書の状況

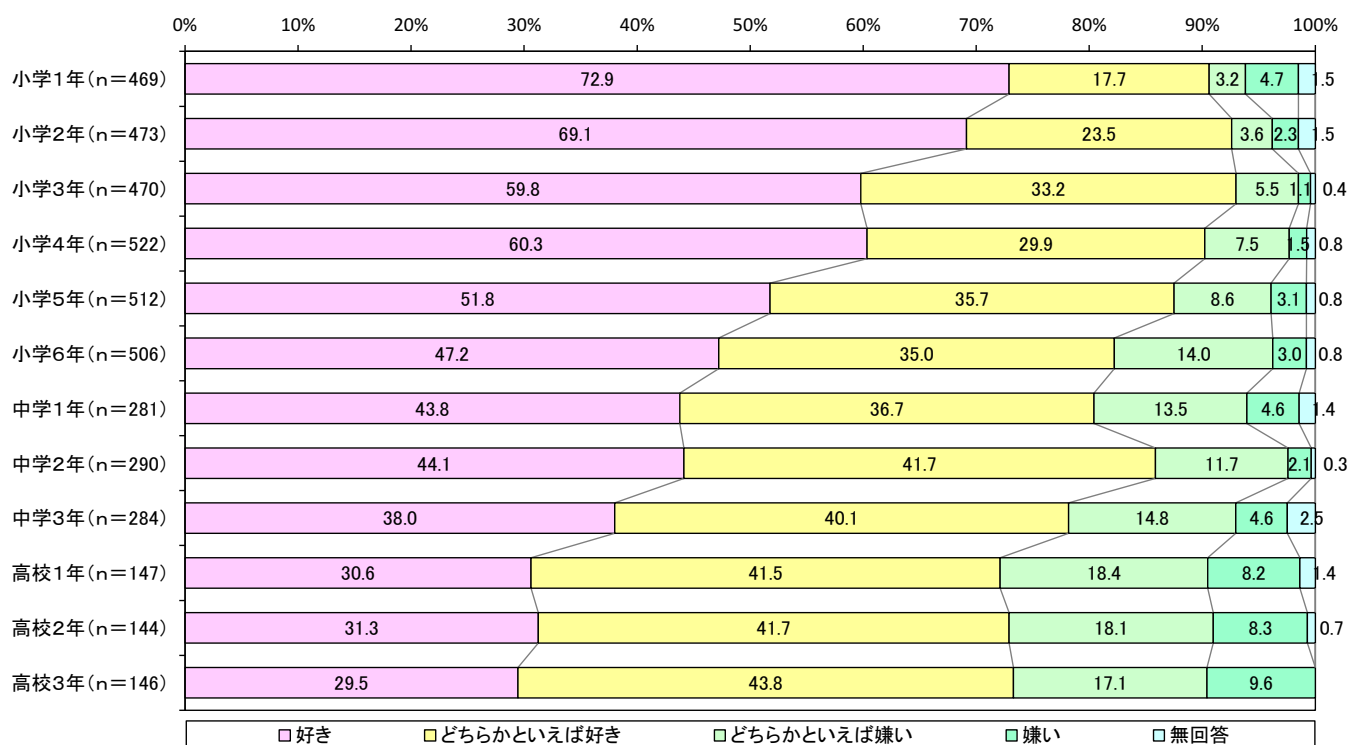
①子どもの読書習慣

小学生から高校生までのすべての学年で、「本が好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合が72%を超えており、本について好意的な傾向が見られますが、学年が上がるにつれ、その割合が減少しています。中学生は、各学年で一定の割合で読書する傾向が見られますが、高校生については、1か月に1冊も本を読まない割合が35～40%あり、高校入学後に読書離れが進む傾向が見られます。

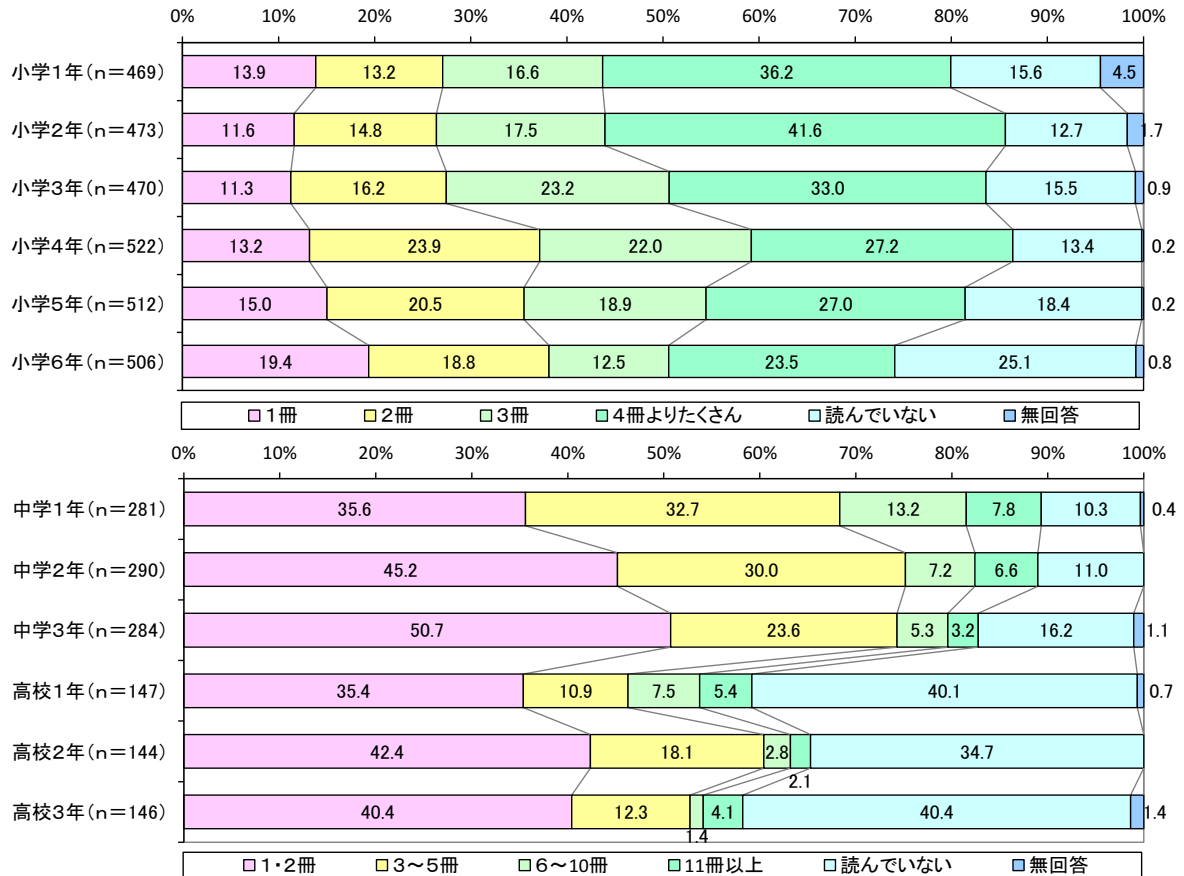
本を読まなかった理由として、「勉強や習いごと、部活動などで忙しいから」「読みたい本がないから」「本よりネットやライン、ツイッターなどを見るのが好きだから」と回答した割合が全学年で一定数あり、学年や学校段階により、勉強や習いごと、スポーツなどが生活の中で優先されることや、読みたい本との出会いがないなどの理由で読書から離れる状況が伺えます。授業以外での学校図書館の利用頻度については、小学1年生を除いた全学年で、学年が上がるにつれ減少しています。

子どもの年齢や要望に対応した蔵書構成や、本と出会うきっかけづくりなど、読書離れへの対策と、子どもに一番身近な図書館である学校図書館の利用を促進する必要があります。

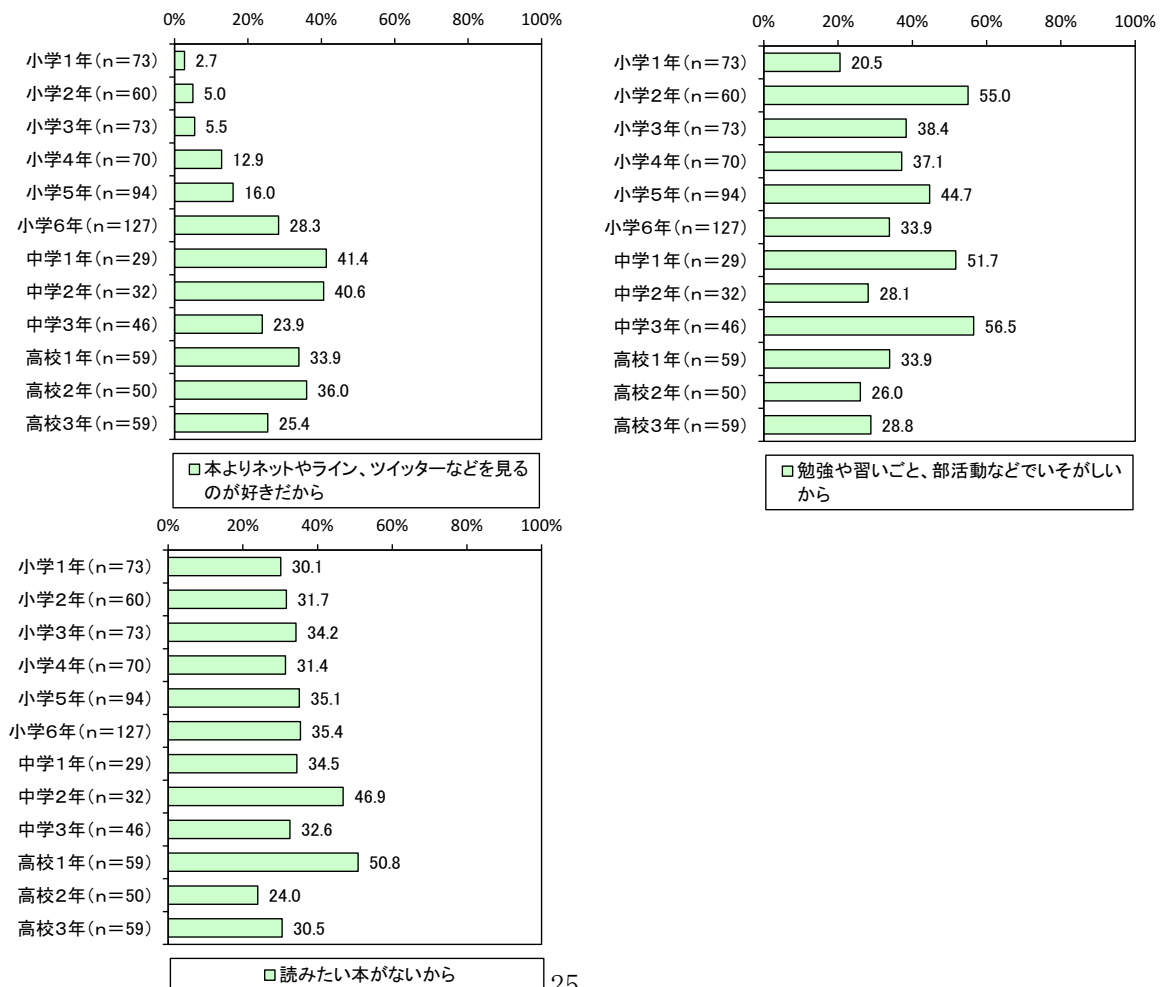
■本が好きかどうか



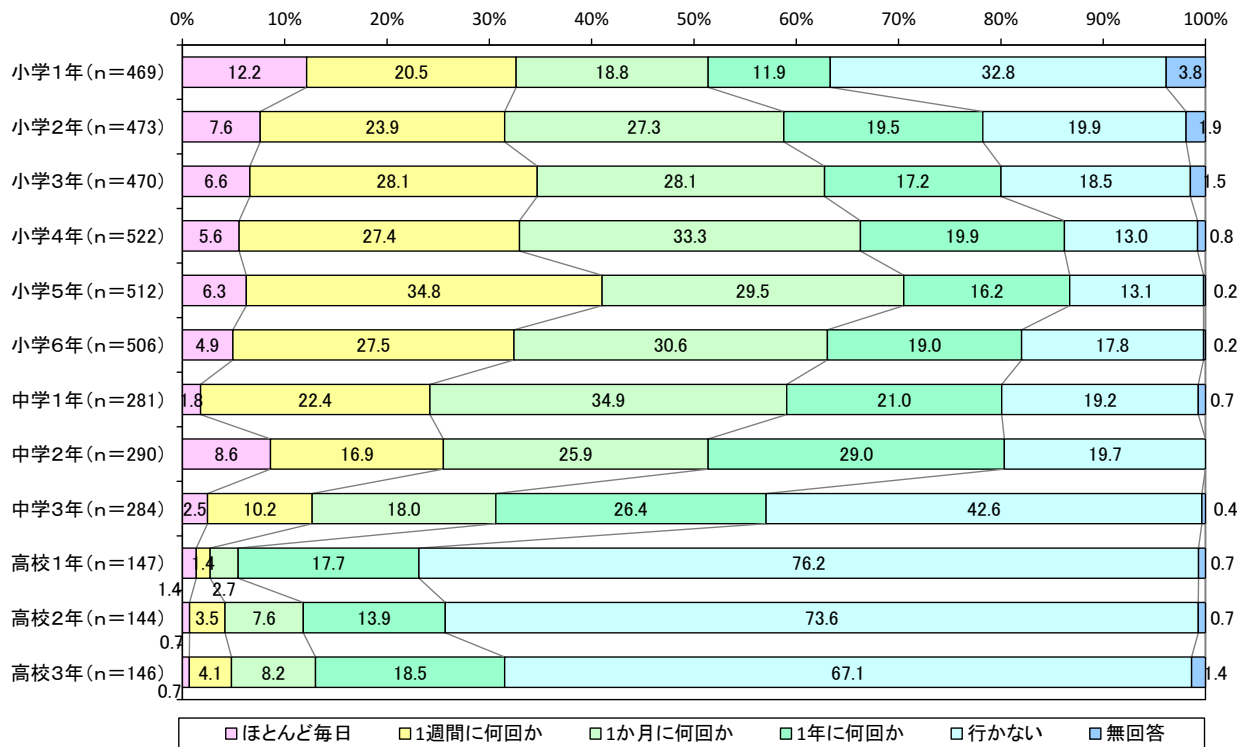
■ 1週間（小学生）・1か月（中・高校生）に読んだ本の冊数



■ 本を読まなかった理由



■授業以外での学校図書館の利用頻度

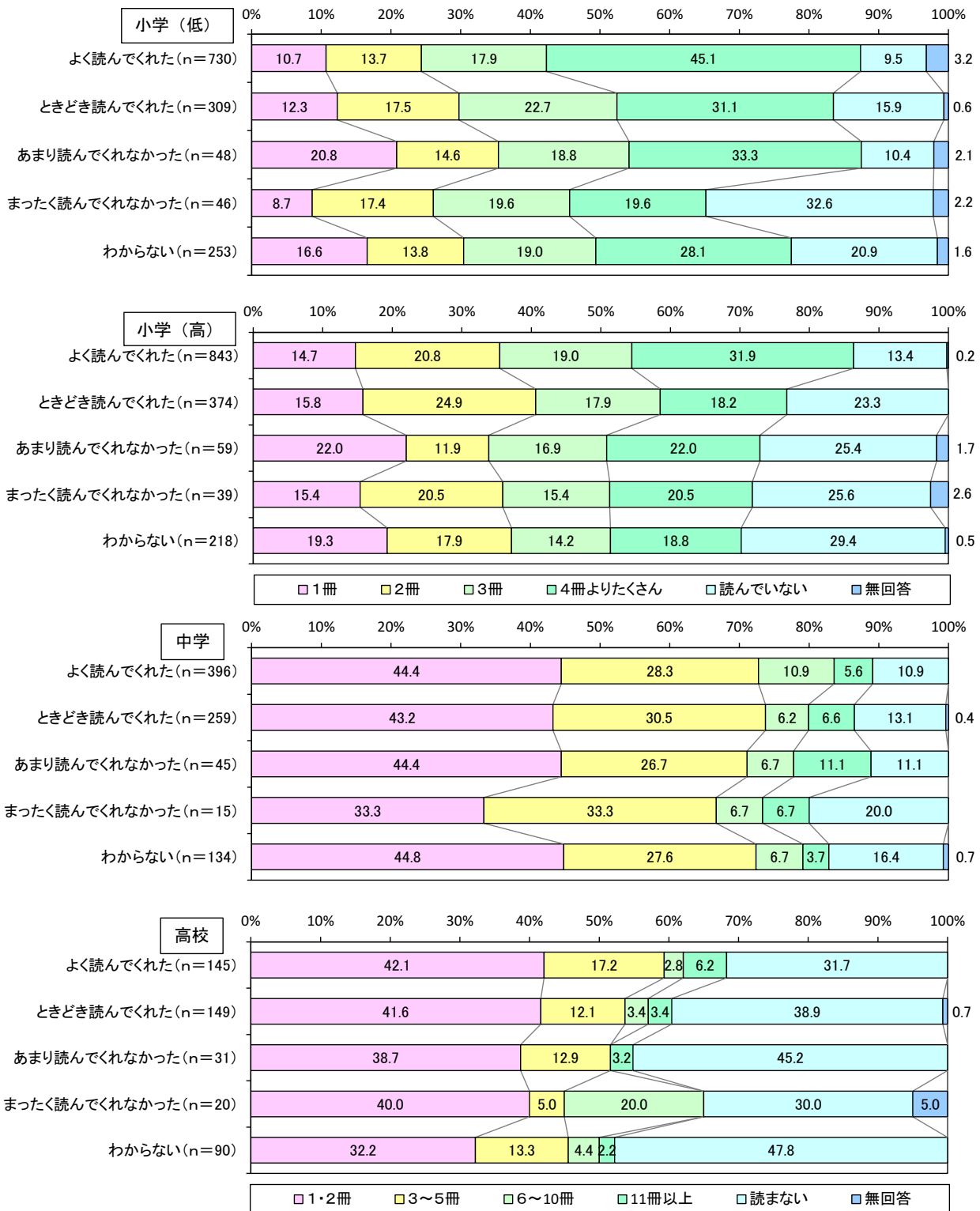


②家族からの読み聞かせ経験の有無と読書習慣の関連性

家庭での読み聞かせについては、「よく読んでくれた」と回答した子どもの本に対する好意度、読書量、図書館の利用頻度が全学年で高い傾向にあります。小学生ではその経験が多いほど、本に対する好意度、読書量、図書館の利用頻度がいずれも高く、読み聞かせの経験の有無によって、読書習慣に差異が生じています。中学生ではその差異は縮小し、高校生では多少の差異は見られるものの、経験の有無に関らず、読書量が少なく図書館の利用頻度も低い傾向にあります。

これらの結果から、家庭での読み聞かせは、子どもの読書習慣の形成に重要な役割を果たしており、家庭での読み聞かせをさらに推進する必要があると考えられます。ただし、読書習慣が身につけていても、学年が上がるにつれ読書から離れていく傾向があるため、子どもの成長に合わせた読書活動への継続的な支援が必要と考えられます。

■「家族からの読み聞かせ経験の有無」と「1週間（1か月）に読んだ本の冊数」の関連性

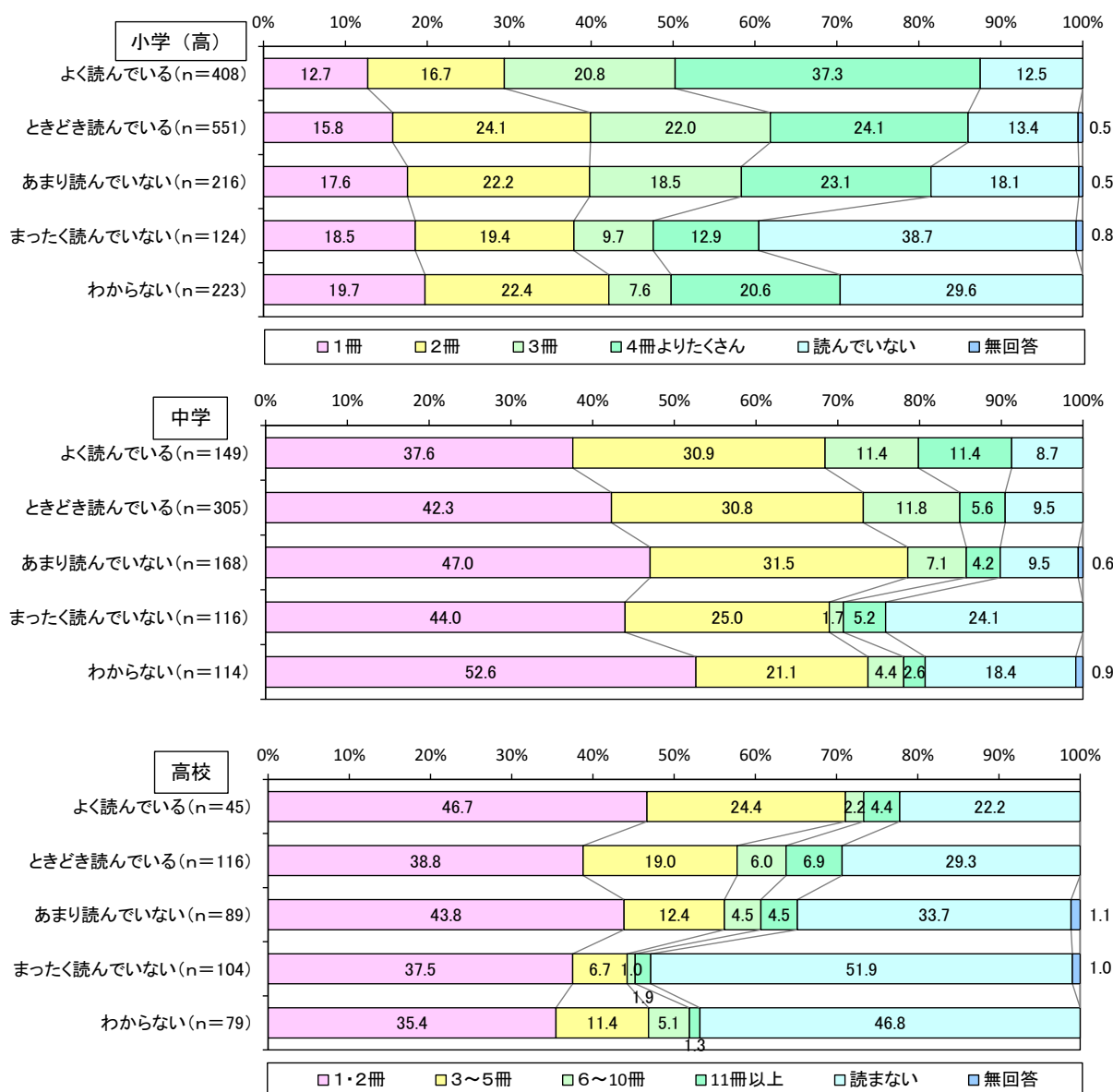


③家族の読書状況と読書習慣の関連性

全学年で、家族の読書量が多いほど、子どもの本に対する好意度、読書量、図書館の利用頻度がいずれも高い傾向にあり、家族の読書量により、子どもの本に対する好意度、読書量、図書館の利用頻度に差異が生じています。

これらの結果から、子どもの読書習慣の形成に、家族の読書状況が重要な役割を果たしており、家族への読書支援も必要であると考えられます。ただし、高校生については、不読率が高いため、別の取り組みが必要と考えられます。

■「家族の読書状況」と「1週間（1か月）に読んだ本の冊数」の関連性

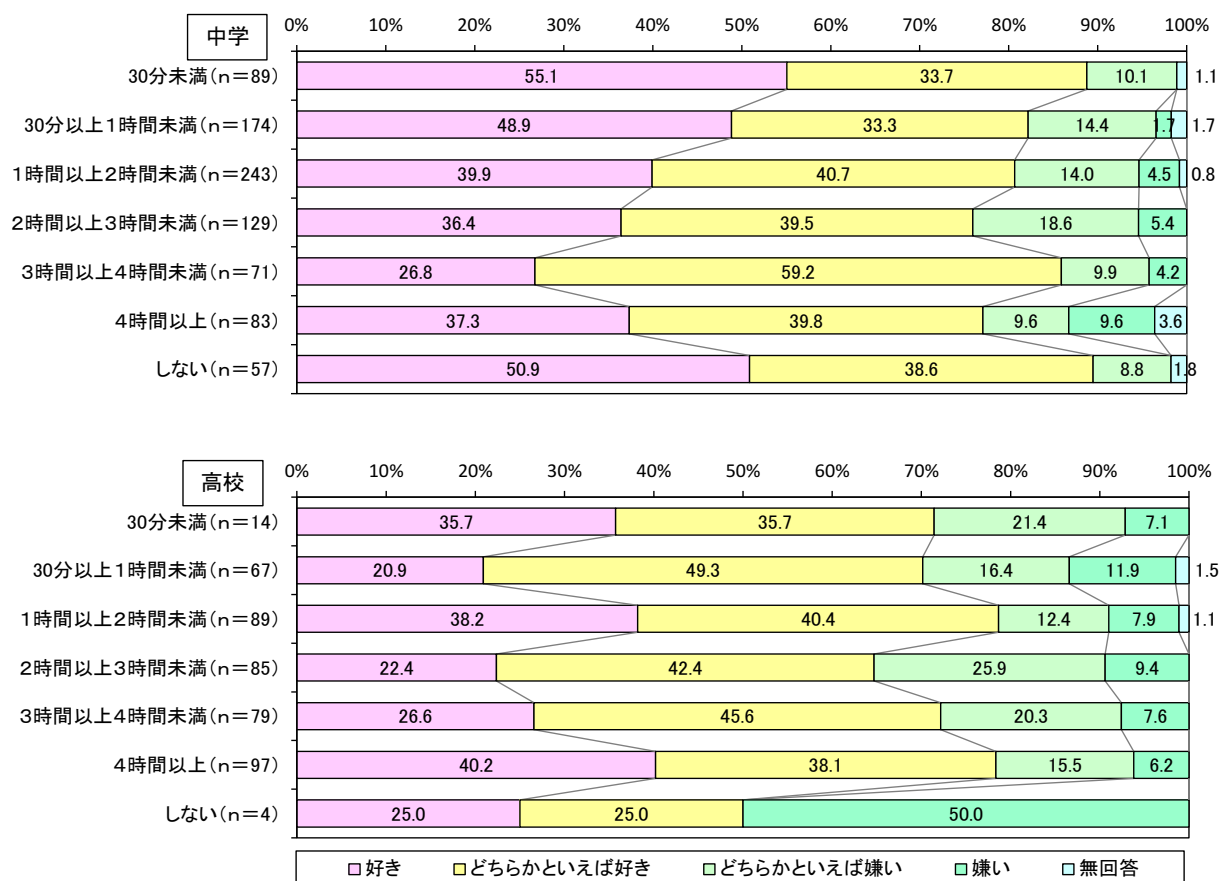


④インターネットや SNS の利用状況と読書習慣の関連性

子どもが本を読まなかった理由として、「本よりネットやライン、ツイッターなどを見るのが好きだから」と回答した割合が、学年が上がるにつれ増加しており、インターネットや携帯端末、電子機器の普及による影響が見られます。中学生については、インターネットや SNS の利用時間が長いほど、「本が好き」と回答した割合が低い傾向にあります。高校生については、一部を除き、利用時間に関らず、「本が好き」と「どちらかといえば好き」を合わせた割合は 65%を超えています。中・高校生とも、インターネットや SNS の利用時間に関らず、1 か月に 1 冊以上の読書をした回答が一定の割合であります。高校生は不読率が一部を除き 34%以上と高くなっています。

インターネットや携帯端末、電子機器の普及は中・高校生の読書に影響を与えてはいますが、インターネットや SNS の利用時間と読書との関連については、一概には言えない結果となりました。

■「インターネットや SNS の利用状況」と「本が好きかどうか」の関連性



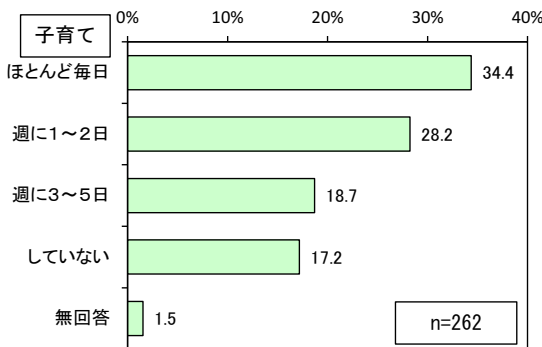
(2) 子育て世帯の読書の状況

①子どもへの読み聞かせについて

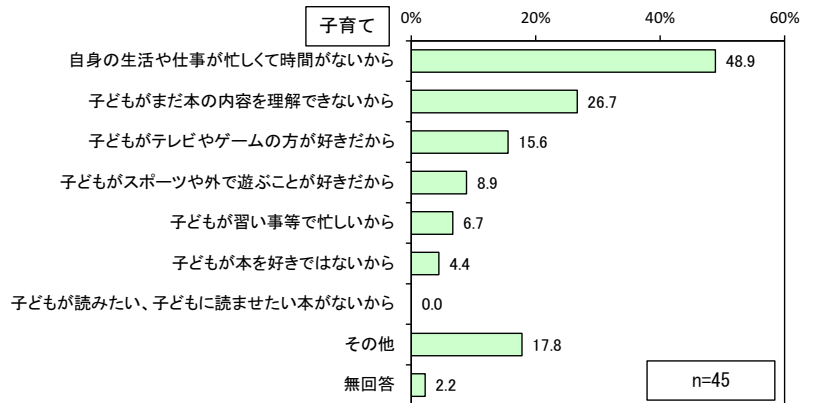
子どもに読み聞かせをしている世帯は81%で、そのうち34%が毎日読み聞かせをしています。読み聞かせをしていない世帯は17%で、その理由として「自身の生活や仕事が忙しくて時間がなから」が49%、「子どもがまだ本の内容を理解できないから」が27%となっています。

未就学児への家庭での読み聞かせなどを促進するためには、保護者への働きかけが必要です。

■子どもへの読み聞かせの実施頻度



■子どもへの読み聞かせをしていない理由

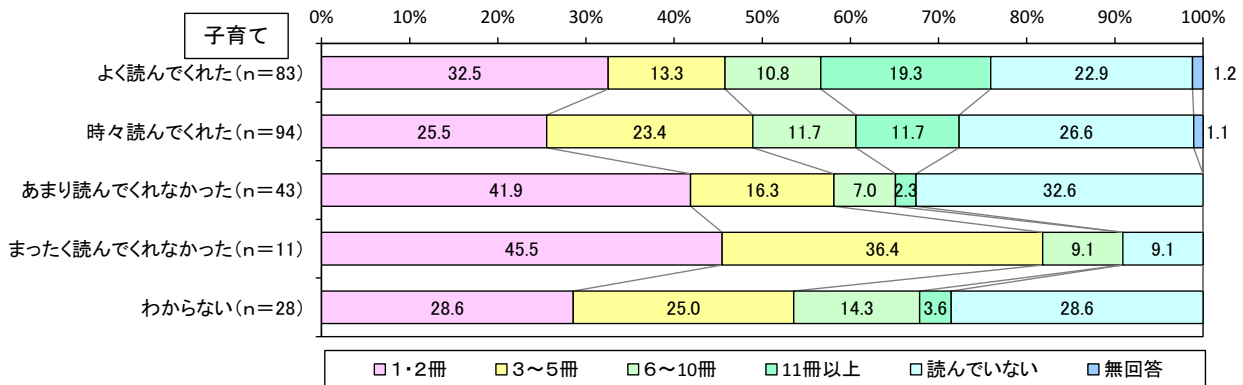


②保護者自身の読み聞かせの経験と現在の家庭での読書習慣の関連性

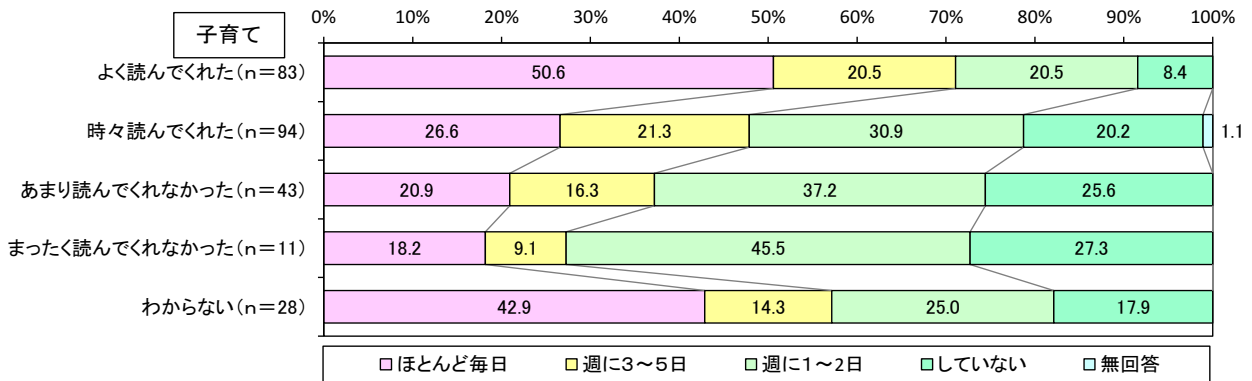
保護者の子どもの頃の読み聞かせの経験が多いほど、現在の保護者自身の読書量や子どもへの読み聞かせの頻度、図書館の利用頻度が高い傾向にあり、子どもの頃の読み聞かせの経験が、その後の読書習慣に影響していると考えられます。

読書習慣や図書館利用を世代間でつないでいくため、家庭での読み聞かせなどを促進する取り組みの充実を図る必要があります。

■「子どもの頃の読み聞かせの経験の有無」と「(保護者が) 1か月に読んだ本の冊数」の関連性



■「子どもの頃の読み聞かせの経験の有無」と「子どもへの読み聞かせの実施頻度」の関連性



(3) 市立図書館の利用状況

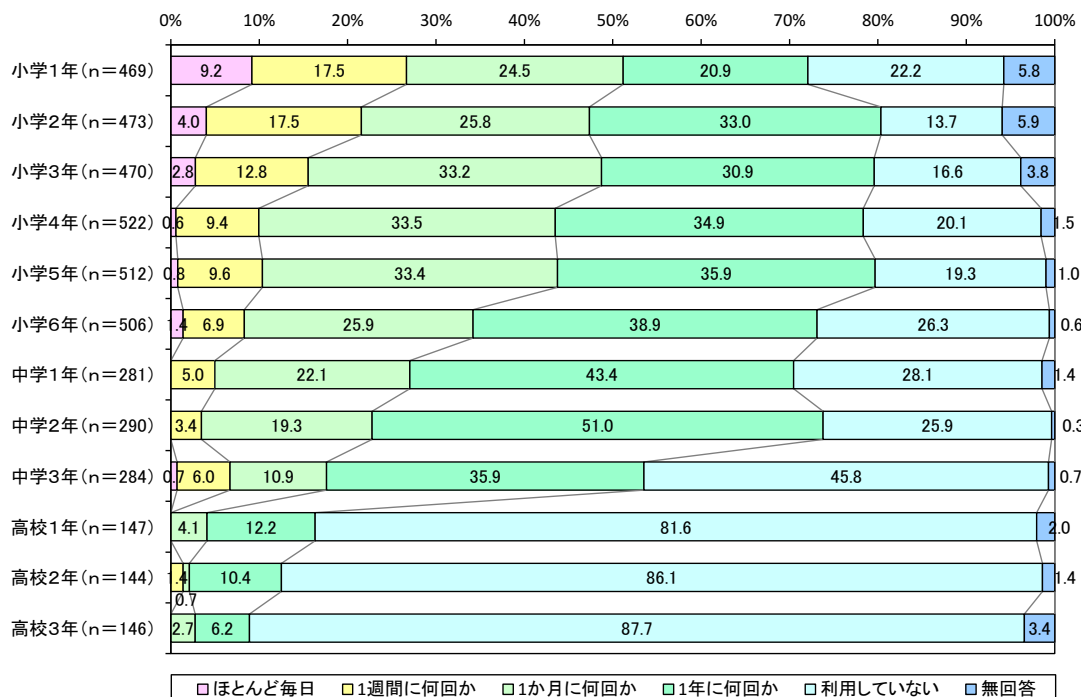
①小・中・高校生の市立図書館の利用

市立図書館の利用頻度は、小学生と中学生は、学年が上がるにつれ低くなる傾向があります。高校生は、82~88%が市立図書館を利用していません。小学生と中学生については、学校図書館の利用頻度が高いほど、市立図書館の利用頻度も高い傾向がみられます。

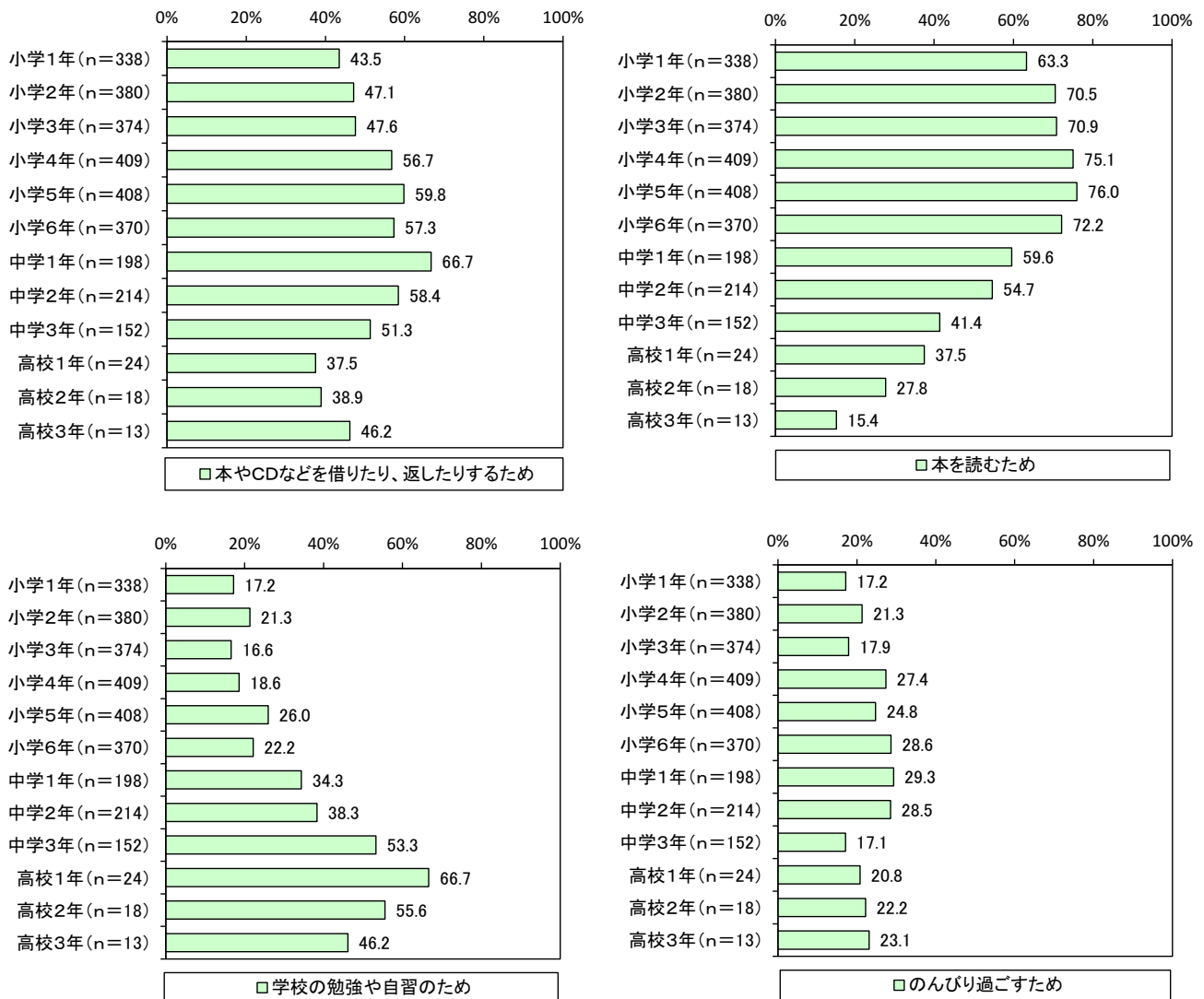
市立図書館の利用目的は、小学生から中学2年生までは「本やCD等を借りたり、返したりするため」と「本を読むため」が大半を占めますが、中学3年生から高校生は、「学校の勉強や自習のため」が最も多くなっています。また、すべての学年で、「のんびり過ごすため」という回答が17~29%あります。

これらの結果から、中・高校生に市立図書館の利用を促すきっかけづくりや、読書以外の目的にも対応した機能や設備について検討する必要があります。

■市立図書館の利用頻度



■市立図書館の利用目的



②子育て世帯の市立図書館の利用

子育て世帯の77%が市立図書館を利用しており、利用頻度は「月に1～2回」が40%、「年に数回」が26%、「利用しているが、子どもは連れて行かない」は3%ありました。利用目的については、「本やCD等を借りたり、返したりするため」(90%)と「本を読むため」(34%)が多く、「のんびり過ごすため」(10%)や、「おはなし会等のイベントに参加するため」(8%)といった回答もありました。

市立図書館を利用しない理由については、「子どもを図書館に連れて行くのが大変なため」が34%、「子どもが図書館で泣いたり騒いだりするので、連れて行きたくない」が31%と、ともに30%を超えています。

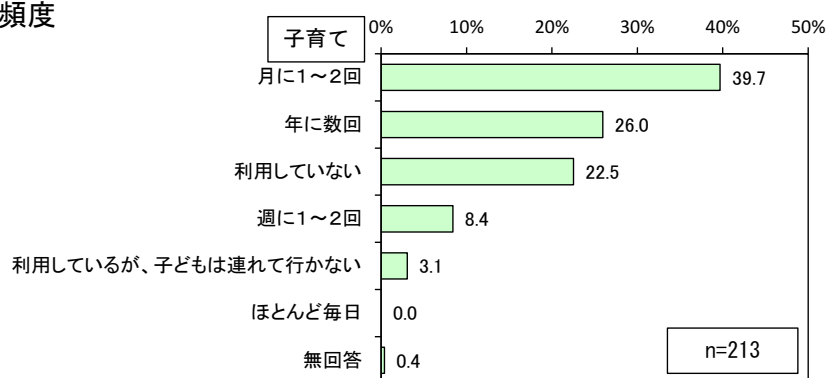
利用する時間帯は、平日は午前中よりも午後の利用率が高く、土・日・祝日は午前と午後の差異がほとんどありません。1回当たりの滞在時間は、「1時間未満」が78%、「1時間以上2時間未満」が21%で、利用者の99%が2時間未満と短い傾向にあります。

よく利用する市立図書館と移動手段については、多くが中央図書館と分館を使い分けており、近くの図書館へは徒歩か自転車、離れた図書館へは自動車を利用している様子が伺えます。バスなどの公共交通機関の利用は5%程度でした。

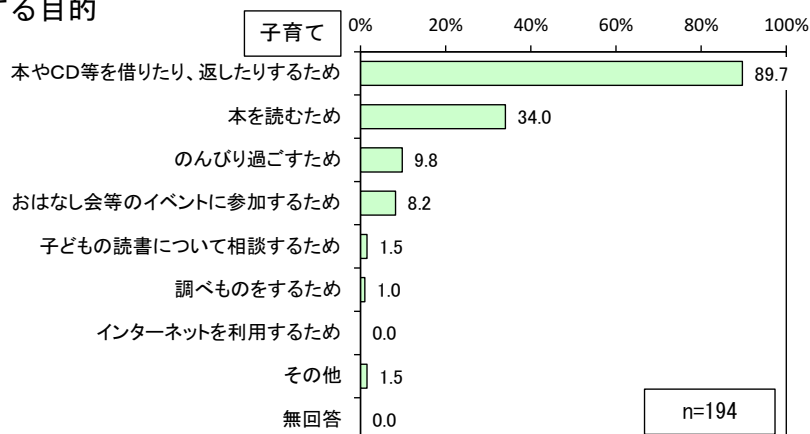
図書館の満足度については、「子どもに読ませたい本がある」や「目的がなくても気軽に立ち寄れる」などの項目の評価が高い一方で、「トイレや授乳室等の設備が整っている」と「子どもの読書について、気軽に相談できる」「親子で参加できるイベントがある」の3項目については、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた回答の割合が各項目とも50%未満と低い評価でした。

これらの結果から、中央図書館の児童フロアや分館の児童コーナーが手狭であることや、子どもの声等への気兼ねから子育て世帯の利用時間が短い傾向があると考えられます。また、閲覧スペースやトイレ、授乳室等の設備、相談体制の強化、各種イベントの開催等、子どもを連れていても利用しやすい環境や機能の検討が必要です。

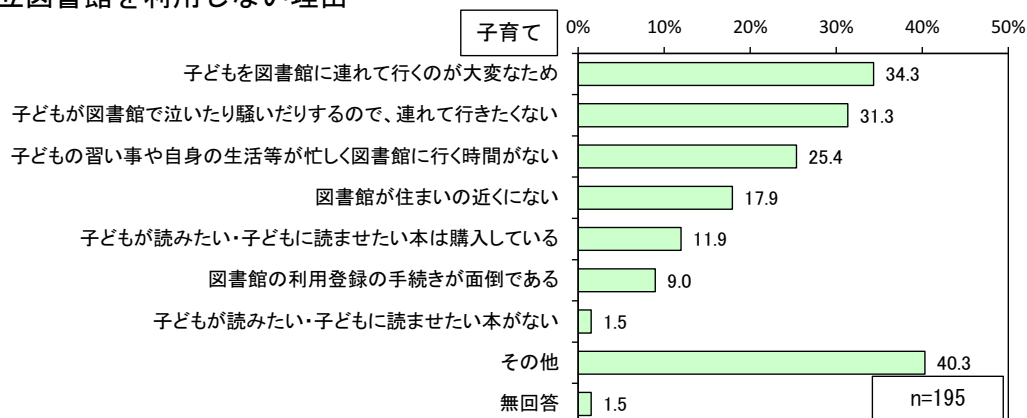
■市立図書館の利用頻度



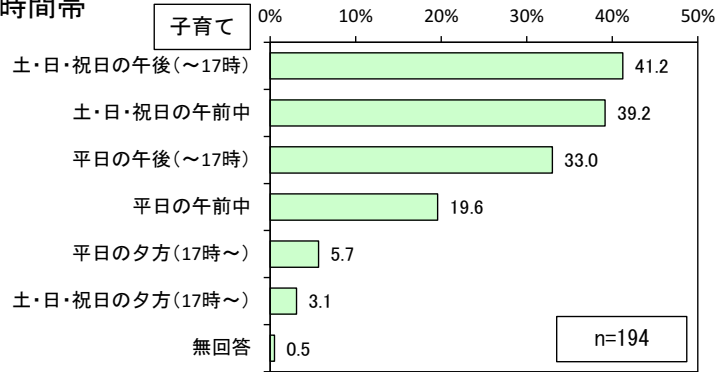
■市立図書館を利用する目的



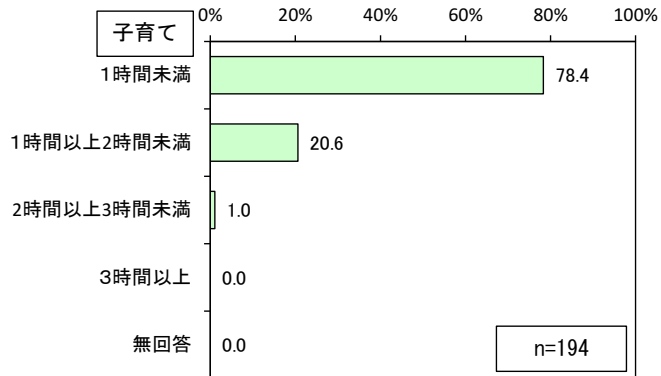
■市立図書館を利用しない理由



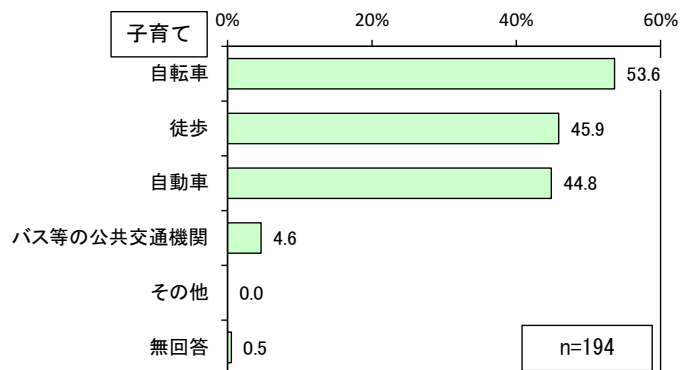
■ 市立図書館を利用する時間帯



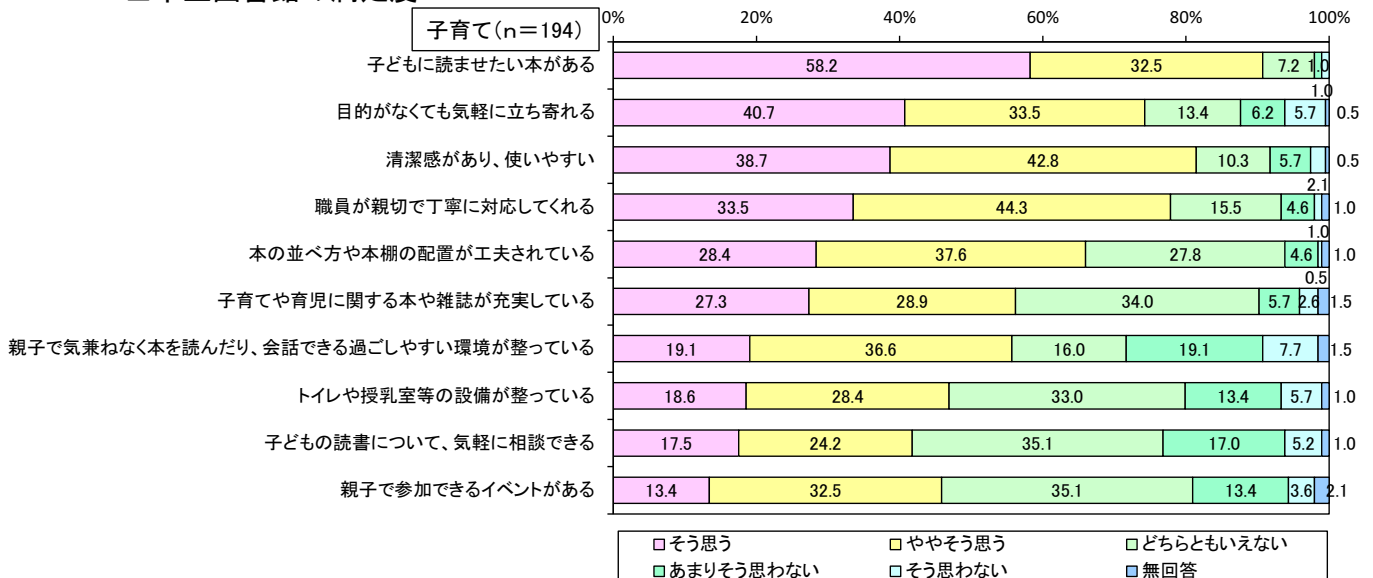
■ 市立図書館での滞在時間



■ 市立図書館への移動手段



■ 市立図書館の満足度



③市立図書館の利用環境

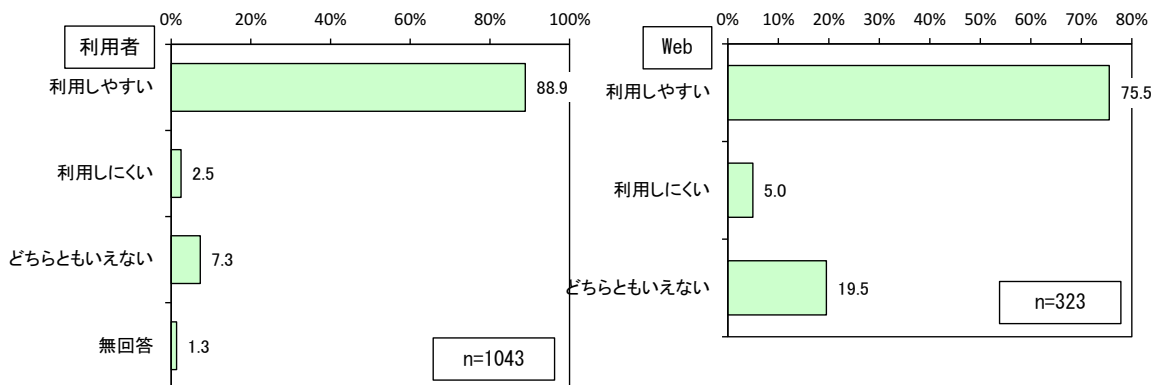
図書館利用者の89%とWebアンケート回答者の75%が、市立図書館は「利用しやすい」と回答しています。

話し声についての設問では、「気になることはないが、気を遣うことがある」が図書館利用者とWebアンケート回答者とも30%程度あり、「気になることも、気を遣うこともある」は、図書館利用者では19%、Webアンケート回答者では32%ありました。一方、「気になることも、気を遣うこともない」は、図書館利用者は33%、Webアンケート回答者は22%であり、多くの利用者が館内での話し声を気にしている様子が伺えます。

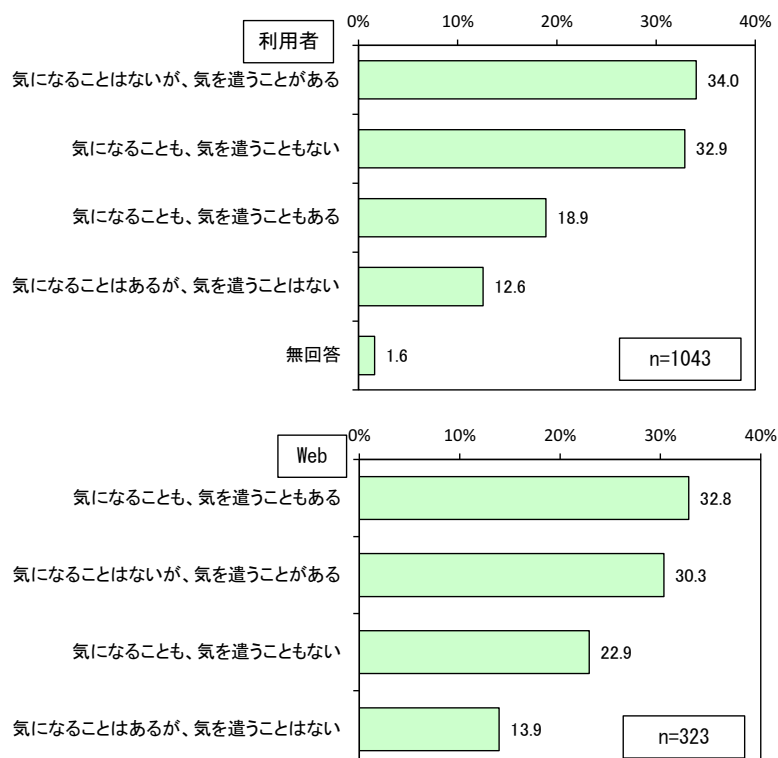
子育て世帯では、市立図書館を利用していない理由として「子どもを図書館に連れて行くのが大変なため」と「子どもが図書館で泣いたり騒いだりするので、連れて行きたくない」の回答がともに30%を超えています。

これらの結果から、親子で気兼ねなく図書館を利用できるよう環境を改善する必要があります。

■市立図書館の利用しやすさ



■市立図書館での話し声について



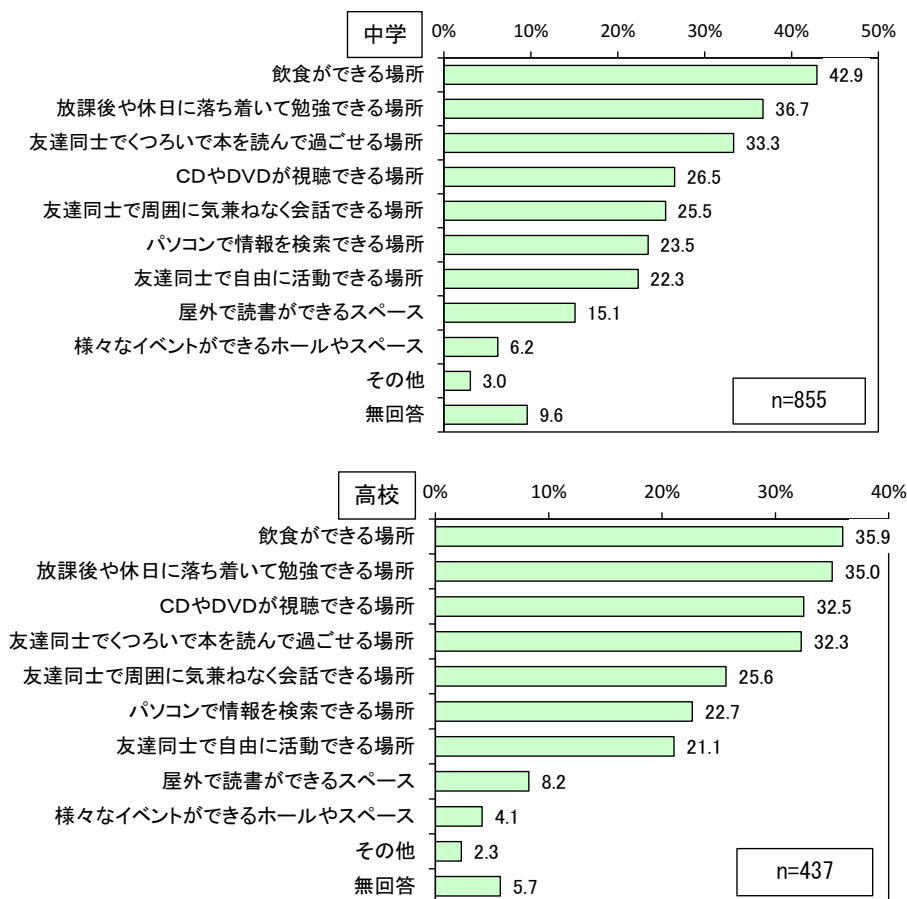
(4) 子ども図書館に望むこと

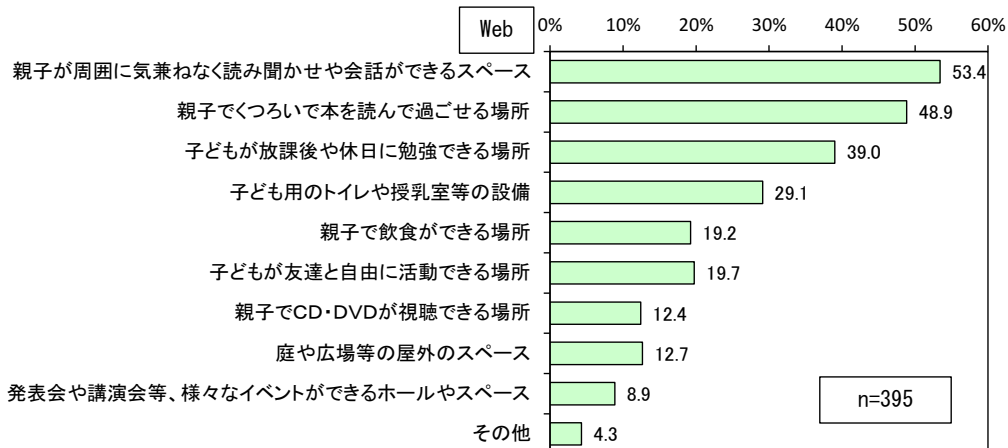
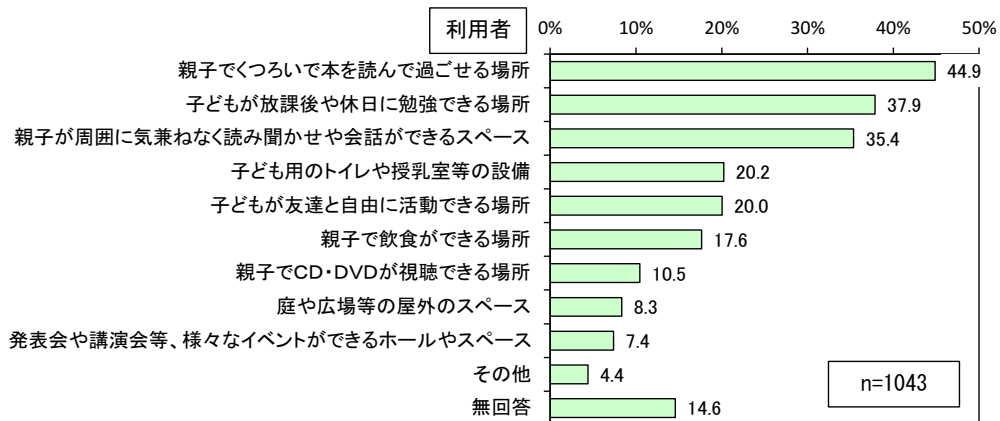
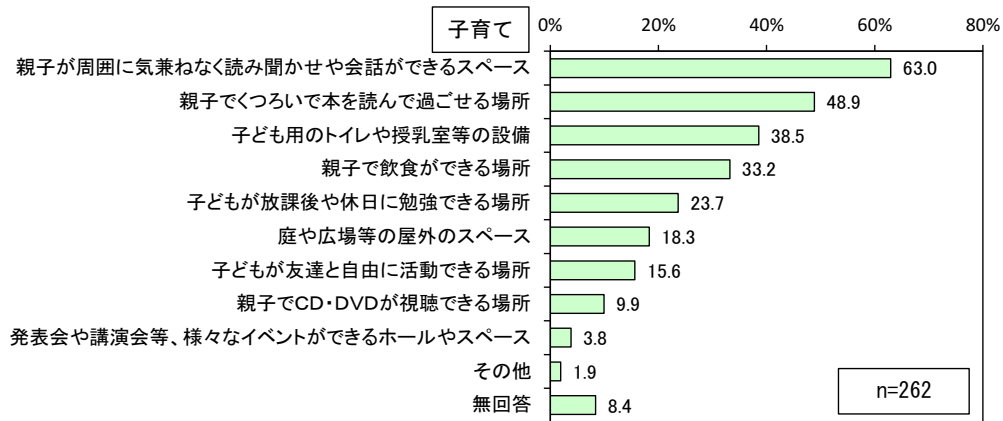
①子ども図書館に求める機能や設備

中学生や高校生では「飲食ができる場所」と「放課後や休日に落ち着いて勉強できる場所」の希望が多く、「友達同士でくつろいで本を読んで過ごせる場所」の希望も30%以上ありました。子育て世帯では「親子が周囲に気兼ねなく読み聞かせや会話ができるスペース」(63%)、「親子でくつろいで本を読んで過ごせる場所」(49%)、「子ども用のトイレや授乳室等の設備」(39%)の希望が多く、図書館利用者とWebアンケート回答者では、順位は違いますが、ともに「親子でくつろいで本を読んで過ごせる場所」「子どもが放課後や休日に勉強できる場所」「親子が周囲に気兼ねなく読み聞かせや会話ができるスペース」の希望が多くありました。「親子でくつろいで本を読んで過ごせる場所」と「親子が周囲に気兼ねなく読み聞かせや会話ができるスペース」については、子育て世帯、図書館利用者、Webアンケート回答者に共通して希望が多くありました。また、「子どもが放課後や休日に勉強できる場所」については図書館利用者、Webアンケート回答者で、また中・高校生の調査の回答でも希望が多くありました。「親子で飲食ができる場所」については、子育て世帯は33%、図書館利用者とWebアンケート回答者ではともに19%前後の希望がありました。

これらの結果から、子どもや親子が気兼ねなくくつろいで本を読んだり、声を出して読み聞かせをしたりできる場所や、飲食ができる場所、自習室等について検討する必要があります。

■子ども図書館に求める機能・設備





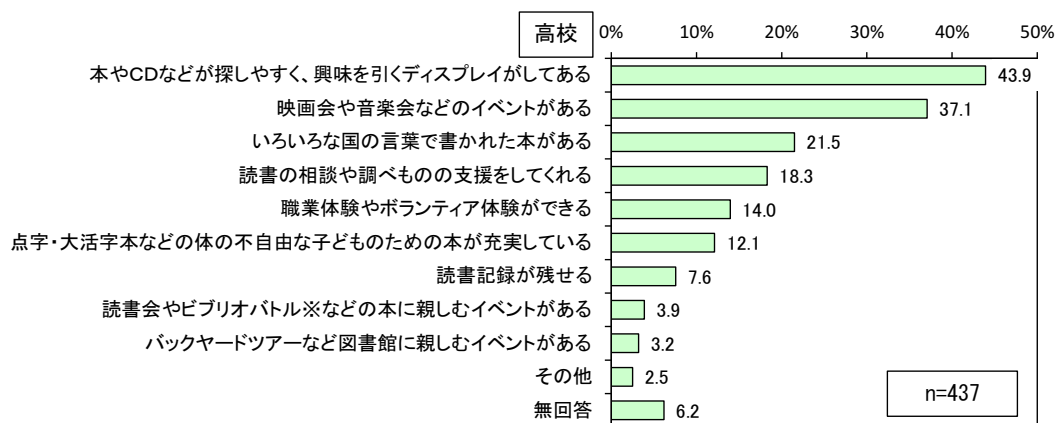
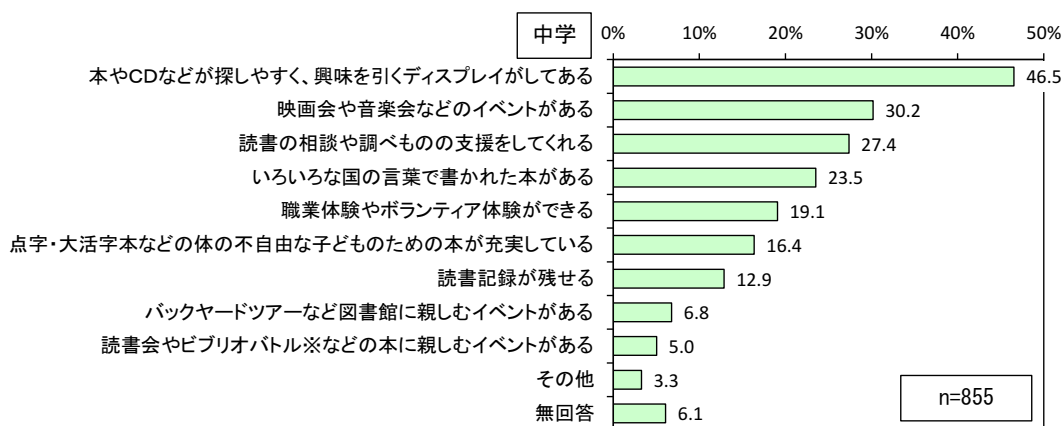
②子ども図書館に求めるサービスやイベント

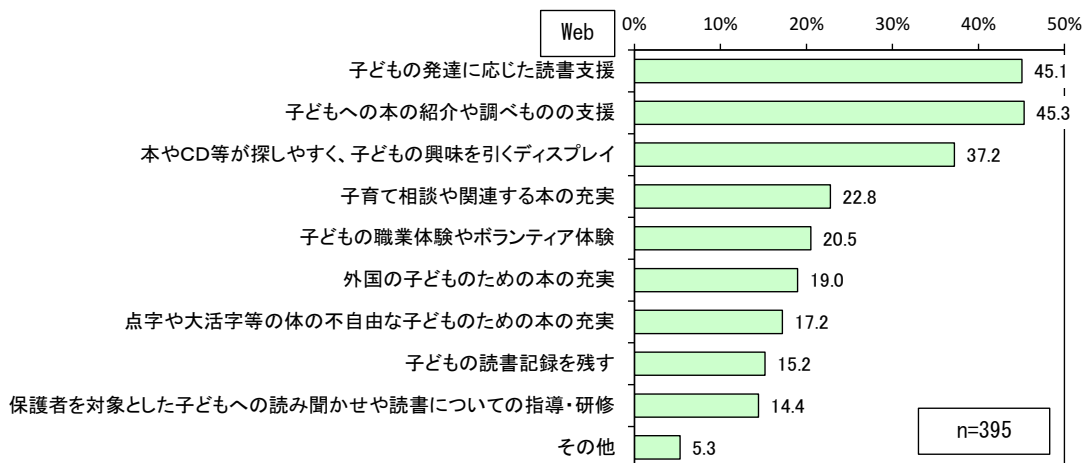
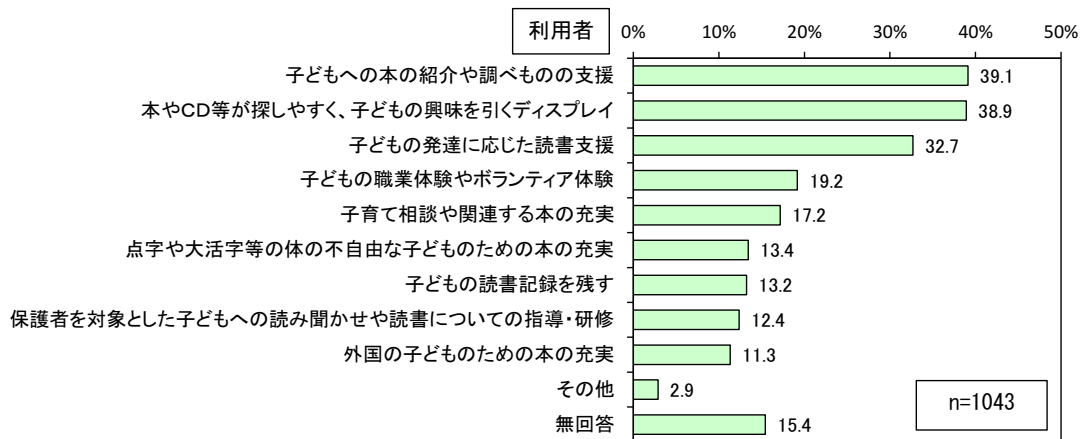
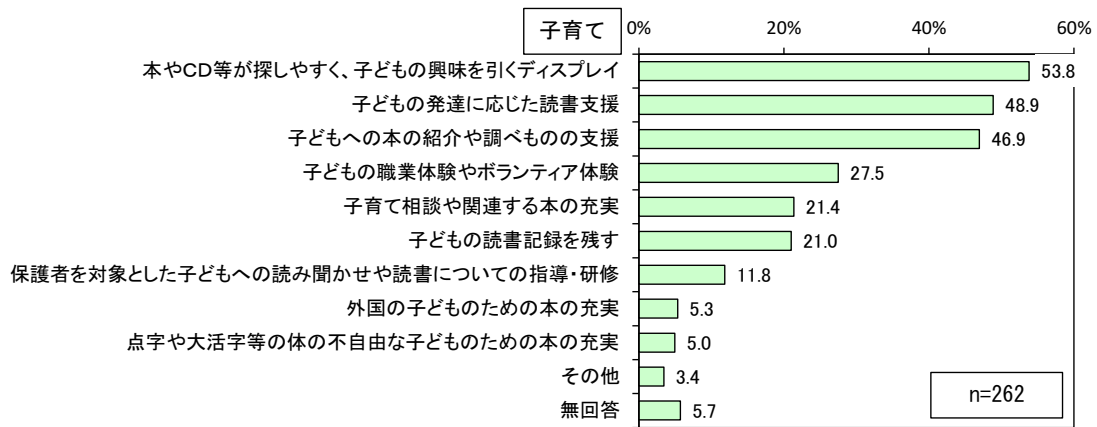
中・高校生ではともに「本やCDなどが探しやすい、興味を引くディスプレイ」「映画会や音楽会等のイベント」の希望が多く、順位は違いますが「読書の相談や調べものの支援をしてくれる」「いろいろな国の言葉で書かれた本がある」の希望も多くありました。子育て世帯、図書館利用者、Web アンケート回答者では、順位は違いますが、いずれも「本やCDなどが探しやすい、子どもの興味を引くディスプレイ」「子どもへの本の紹介や調べものの支援」「子どもの発達に応じた読書支援」の希望が多くありました。中学生や高校生、子育て世帯、図書館利用者、Web アンケート回答者で、順位は違いますが、14～28%の割合で「職業体験やボランティア体験ができる」の希望もありました。

子ども図書館で実施してほしいイベントについては、子育て世帯で、「お話会、読書会等の物語に親しむイベント」「映画会や音楽会などのイベント」「自由研究・工作教室等の学習支援のイベント」の希望が多くありました。

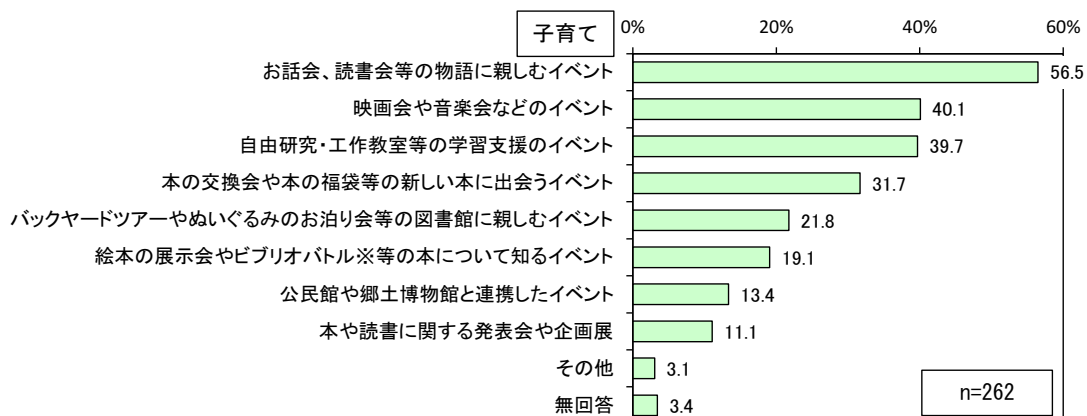
これらの結果から、書架の配置や表紙見せ、読書や調べものの支援（レファレンス）など、図書館としての基本的な機能が子ども図書館でも望まれていることが伺えます。また、イベントについては、自由意見でもさまざまな希望が寄せられており、音楽会や工作教室などこれまで手掛けてこなかったものについては、公民館との連携や協力も考えていく必要があります。

■子ども図書館に求めるサービス





■ 子ども図書館で実施してほしいイベント



③子ども図書館に対する自由意見（一部抜粋）

<蔵書>

すべての調査対象で、豊富な蔵書やさまざまなジャンルを網羅した幅広い蔵書への希望が多くありました。

- ・好きなジャンルやシリーズ、漫画、DVD、CD、しかけ絵本、世界の本、文庫本、勉強のための本（小学校低学年）
- ・好きなジャンルやシリーズ、CD、DVD、お薦めの本、事典、英語の本、漫画、受験雑誌、外国の有名な本、アニメ本、勉強の本、雑誌、大人の本、世界中の本、文庫本、専門的な本、電子図書館、紙芝居、ガイドブック（小学校高学年）
- ・好きなジャンル、好きな作家の本、ライトノベル、文庫、漫画、アニメを小説にした本、CD、文豪の小説、SF、受賞本、恋愛小説、ミステリー、図書館で人気の本のランキング、雑誌（中学生）
- ・ライトノベル、いろいろな種類の本、漫画、韓国の本、画集、外国語の本、勉強の参考になる本、世界の国々の神話（外国語と邦訳のもの）（高校生）
- ・年齢にあった蔵書、子ども向けの英語の本、貸出用の木のおもちゃ、子ども向けのDVD、歴史漫画、漫画、雑誌、破れにくい本、防水加工した本、電子書籍（子育て世帯）
- ・絵本、洋書、軽く読める本、しかけ絵本、学習漫画、DVD、紙芝居、人気シリーズ、玩具、教科書（図書館利用者）
- ・豊富な絵本、世界の絵本、漫画、タブレット端末で読める本、表紙見せ（Webアンケート）

<イベント>

- ・実験、お祭り、ショー、映画、料理教室、本を読んでもくれる、虫を触る、本の劇、芸能人や俳優による読み聞かせ、折り紙、くじ引き、スタンプラリー、ポイントカード（小学校低学年）
- ・読み聞かせ、賞品制度、ハロウィンなどのイベント、手芸の本にある小物を作る、スタンプカード、会員のカードがもらえる、1か月に一番読んだ人を表彰する、福袋（1月）、人形のお泊り会、読書感想文教室、本を作る、塾の宿題を教えてくれる、本の作者と話をする、書庫探検ツアー（小学校高学年）
- ・ビンゴ、あみだくじ、読書記録、ポイント制、映画会、お祭り、イベントでの人との触れ合い（中学生）

- ・ 図書館に行きたくなるイベント、映画会、音楽会、スマホやゲームをする年齢が下がっているため、保護者に本がどんなに大切かをアナウンスできるとよい。(高校生)
- ・ 読書感想文の講座、本の世界を体験するイベント、家族で参加できる内容、開催日(毎日、土日)、ブックマイレージ、読書記録、イベント情報の発信(SNSなど)、工作、プログラミング、外国語の絵本の読み聞かせ(子育て世帯)
- ・ シールラリー、作者と会える、司書体験、実験、クッキング、外国の文化の紹介、昔遊び(図書館利用者)
- ・ 絵本作家の展覧会や講演会、季節感を取り入れたもの、科学実験の体験、マナー講習、怪談の読み聞かせ、運営補助のボランティア、読書記録、シールラリー、クイズラリー、ポイント制度、読書会、絵本関連の小物作り(Webアンケート)

<機能や設備>

- ・ ソファ、座りやすい椅子、ハンモック、畳、じゅうたんスペース、飲食できる場所、カフェ、遊べる場所、アスレチック、駐車場、コンビニ、赤ちゃん用の部屋、ちびっこルーム、イベントスペース、学習室、パソコン室、泊まれる部屋、DVDを観る場所、ロボットが案内、お菓子売り場、BGM、水飲み場、本の紹介や検索、絵が描ける、低学年・中学年などに分けたゾーン、自動販売機、ドリンクバー、ホール、借りられるパソコン、エレベーター(小学校低学年)
- ・ ソファ、寝ころべるスペース、ハンモック、ベッド、飲食ができる、休憩スペース、静かに一人で過ごせる(本を読める)場所、個室、パソコン、ウォーターサーバー、キャラクターのオブジェ、本に出てくる料理などのメニューがあるレストラン、カフェ、自習室、広い自習スペース、自動販売機、ドリンクバー、防音室、音楽が流れている、パソコンを使った調べものができる、本を検索すると本の場所が示される、畳、DVDを友だちと観る場所、絵本に出てくる主人公のぬいぐるみ、テレビ、遊ぶ場所、スポーツができる広場、自由に工作ができる、年齢別の本を読める場所、自分で手続きできるカウンター、子どもが好きな曲を流す、オセロゲームなどができる場所、読書記録、テラス、ボールプール、おはなしのへや、お薦め本のコーナー、わかりやすい本の場所の案内、自習室にホワイトボード、図書館専用の無料バス、年齢ごとに分かれた部屋、ロボットや機械(検索、お薦め本の紹介、すぐに運んでくる、貸出する)、体育館、司書体験(小学校高学年)
- ・ 飲食できる場所、遊べる広場、ソファ、カフェ、少人数で勉強できる自習室、防音の場所、キッズエリア、パソコンやゲームの設置、友だちと活動できる場所、大声ではないが少し話せるスペース、話すスペースと静かなスペースを分ける、読書・くつろぎ・勉強ゾーンに分けてゾーンごとのルールを作る、屋上、職業体験、読み聞かせボランティア、インターネットの利用、売店、Wi-Fiの整備、CD・DVDの視聴、ダンスや演劇などの練習ができる場所、ドリンクバー、個室、ユニバーサルデザイン、自動販売機(中学生)

- ・ 子どもからギリギリ大人までの触れ合いの場、静かに勉強や読書ができるスペースと自由にゲーム等ができる場を分ける、読書以外ができる場所、音楽が聴ける、体を動かせる、子どもの声や読み聞かせの声が他に漏れない工夫、ジャンル別で楽しめる空間、休憩スペース、友人とゆっくりできる・しゃべれる場所、体育館、遊べる場所、CD・DVDの視聴、飲食スペース、自習室、ワークスペース、広い公園、無料の食堂、ボランティアができる場所、座席の増設、やわらかいソファ（高校生）
- ・ 年齢に合った本のコーナー、お薦め本の紹介、授乳室、おしゃれなカフェ、飲食スペース、声を出してもよい場所、CD・DVDの視聴、動物との触れ合い、BGM、不要本の交換会、荷物置き場、近代的な内装、アスレチック、プレイルーム、子育て支援機能、託児、保護者へのサービス、親子で学習できる場所、ベビーステーション、本を探したくなるしかけ、靴を脱いであがるスペース、子ども用トイレ、大きな庭（子育て世帯）
- ・ 靴を脱いであがる場所、DVDやCDの視聴、子ども用自習室、飲食スペース、YA向けの場所（図書館利用者）
- ・ 子どもが気にせず声を出せる環境、フリースペース、グループワークができる部屋、土足禁止のスペース、居心地のよい家具やインテリア、ディスプレイ、年齢別の本の展示、芝生、柔らかい床、親子・子ども同士の交流の場、無料の給茶器、送迎バス、プレイスペース（Webアンケート）

<理想とする図書館のイメージ>

- ・ おしゃれできれいで落ち着いた、静かに読める、自然があつて色鮮やかな、広い、小さい兄弟が騒いでも大丈夫、何回来てもあきない（小学校低学年）
- ・ 本の世界に入れる、のんびりできて楽しい空間、楽しい、本を読まない子も読めるようになる（小学校高学年）
- ・ 友だちと気軽に通える、(大人、子どもからお年寄りまで)誰でも自由に使える、明るい図書館、大きくて広い、心が落ち着く、本的话题を気軽に話せる、交流場（中学生）
- ・ 快適、くつろげる、気軽、自由にのんびり、誰でも行きやすく安心して落ち着ける、リラックスできる、子どもがいろいろな本と触れ合える、すべての人が行ける、障がいを持つ人も使いやすい（高校生）
- ・ 気兼ねなく親と子どもがともに楽しめる図書館、雨の日でも過ごしやすい、子どもが楽しみ、行きたくなるような図書館、親子で1日過ごせる（子育て世帯）

- ・ 子どもがまた来たくなるような、子ども目線・子どものための、自ら進んで調べものができる体験型、おもちゃやぬいぐるみが置いてあるかわいい（図書館利用者）
- ・ 子どもがゆっくり過ごせる、行ってみたいくなる、親子で楽しめる、子どもの読書を支援する（Web アンケート）

<その他>

- ・ 本棚が高くないといい、ひらがなの案内、子ども専用の利用券があるとよい（小学校低学年）
- ・ 中央図書館の自習室は中高生が使用していて使いづらい、カードの絵を自分が描ける、子ども図書館には子どもだからと難しい本を置かないというようなことはしてほしくない、棚を低くする、年に何回か学校にアンケートを取って読みたい本を置く（小学校高学年）
- ・ 本が苦手でも読みやすい環境をつくってほしい、警備を厳重にしてほしい、スマホや PC の利用者が増えて読書をするのが少なくなっているため図書館を利用して読書の楽しみを知ってほしい、市民を本好きにさせたい、読みたい本が探しやすくなるといい、最新の設備や新しいサービスの導入には必要性や継続性を考えて欲しい、きれいで蔵書が多く、いつも多くの人が出たりと本と触れ合っている今までの浦安の図書館のようであってほしい（中学生）
- ・ 外観や名称が子どもらしいものだと通いづらい、大人っぽい館名、行きやすい場所、将来、子どもを連れて行きたい、できる頃には卒業しているので残念（高校生）
- ・ 不登校や障がいのある子どものほか、多様な利用者への配慮、借りた本を入れるバッグ、本や備品の除菌、基本的なマナーの周知、循環バス等の必要性、犯罪防止対策、駐車場・駐輪場の整備（子育て世帯）
- ・ 子どもがルールを守る仕組み、アクセスしやすい場所、子どもが一人で通える循環バスやおさんぽバスがあるとよい、カードゲームやボードゲームが対戦できる場所がほしい、将来の職業の知識習得やスキルアップができる、高齢化も視野に入れてほしい（図書館利用者）
- ・ 安全に使える、大人も利用できる、既存館や公民館に併設して設置、ゲームの持ち込み（禁止・賛成）、交通の便の良い立地、開館時間（早朝、夜間）（Web アンケート）

9 課題のまとめ

社会状況の変化や新たな市民ニーズなど、子ども図書館で対応すべき主な課題を次のとおり整理します。

①利用環境の改善

- ・ 子どもと保護者が気兼ねなく、ゆっくり過ごせる図書館が求められている。
- ・ 子どもの成長に合わせて、継続して利用できる図書館が求められている。
- ・ 中学生からのヤングアダルト世代が利用できる図書館が求められている。

②子どもの読書活動を支えるサービスの充実

- ・ 読み聞かせなど未就学児を対象とした児童サービスの充実が求められている。
- ・ 保護者への読書支援や子どもへの読み聞かせなど、家庭での読書活動を支援する取り組みが求められている。
- ・ 中学生からのヤングアダルト世代が、大人になっても読書習慣を継続できるような取り組みが求められている。

③関係する施設との連携・ネットワークの構築

- ・ 中央図書館や分館、学校図書館とのネットワークを構築する必要がある。
- ・ 学校や幼稚園、認定こども園、保育園といった子どもの生活の場での読書活動への支援が求められている。
- ・ 子どもの読書活動の推進に取り組む団体や地域の人材との連携・協働が求められている。
- ・ 新たなイベントの企画や実施については、公民館などの他の生涯学習施設との協力や連携が必要である。

④子どもの読書活動を支える人材の育成

- ・ 児童サービスを担う新たな人材の育成が求められている。
- ・ 学校や地域などで子どもの読書活動の推進に取り組む人材の育成や活用が求められている。
- ・ 子どもの読書活動に関する情報発信や相談機能の強化が求められている。

第3章（仮称）浦安市子ども図書館基本構想

この基本構想は、（仮称）浦安市子ども図書館の整備に関する基本的な事項を定め、その役割や位置づけを明らかにするものであり、今後の子ども図書館の整備の基本的な指針となるものです。

1 課題解決に向けた視点

これまで図書館が培ってきた質の高い児童サービスを基本に、現在の図書館の良さを活かしながら、時代の変化や様々な市民ニーズに対応していくため、次の3つの視点から、子どもの読書活動の推進や市立図書館の児童サービスの拠点となる子ども図書館を整備します。

視点1 だれでも気軽に利用できる

すべての子どもと保護者が、気軽に気兼ねなく利用できる環境を整備します。
気に入った本に出会い、読書を楽しみ、自分の時間を過ごせるような環境を創出します。

視点2 楽しく本に親しむことができる

子どもたちに読書の楽しさを伝え、生涯にわたる読書習慣の形成と定着を図ります。
また、子どもの成長に合わせて多様なニーズに対応していきます。

視点3 本を通じてつながり広がる

本を通じて子どもの読書活動の推進に取り組むさまざまな人材とつながるとともに、世代を超えて読書の輪を広げていきます。

また、学校や幼稚園、認定こども園、保育園といった子どもの生活する場とも連携し、地域での子どもの読書活動を推進します。

2 目指すべき子ども図書館像

(仮称) 浦安市子ども図書館は、“いつでも誰でも気軽に立ち寄ることができる場所”、“屋根のある公園のような子ども図書館”を施設のイメージとし、目指すべき4つの図書館像を設定します。

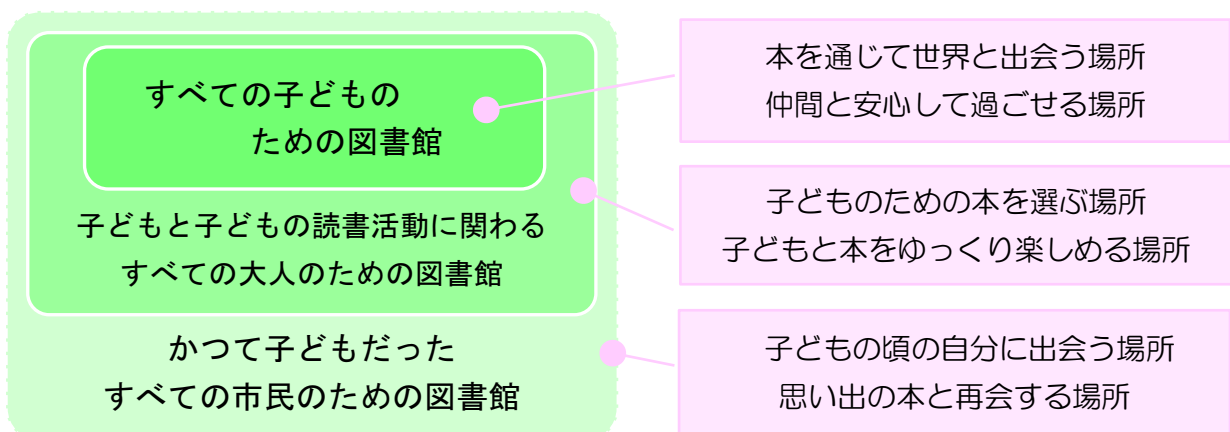
屋根のある公園のような子ども図書館 ～ビブリオ・パーク～

ギリシア語の図書館「vivlio thiki」と公園「TTaoko(parko)」を合わせ「ビブリオ・パーク」と表現しています。

図書館像1 子どもと子どもの読書活動に関わるすべての人のための子ども図書館

子どもの読書活動を推進するためには、子どもはもちろん、子どもを取り巻く大人が読書に興味を持ち、読書と関わりを持つことが大切です。子ども図書館は、障がいの有無や言語に関わらず、すべての子どもと保護者、子どもの読書活動に関わるすべての大人に開かれた図書館を目指します。

また、子どもと保護者が公園のように気軽に気兼ねなく利用できる読書環境を整備し、浦安の図書館で育った子どもたちが親となり、子どもを連れて戻ってくるような、世代を超えて利用される図書館を目指します。



図書館像2 成長に合わせて利用できる子ども図書館

乳幼児からヤングアダルト世代まで、切れ目のない児童サービスを展開し、子どもの成長に合わせて継続して利用できる子ども図書館を目指します。

読書習慣の形成には、乳幼児期の子どもへの読み聞かせなど、家庭での取り組みが重要です。これまで実施してきた児童サービスを基本に、読み聞かせなどの家庭での読書活動を支援します。

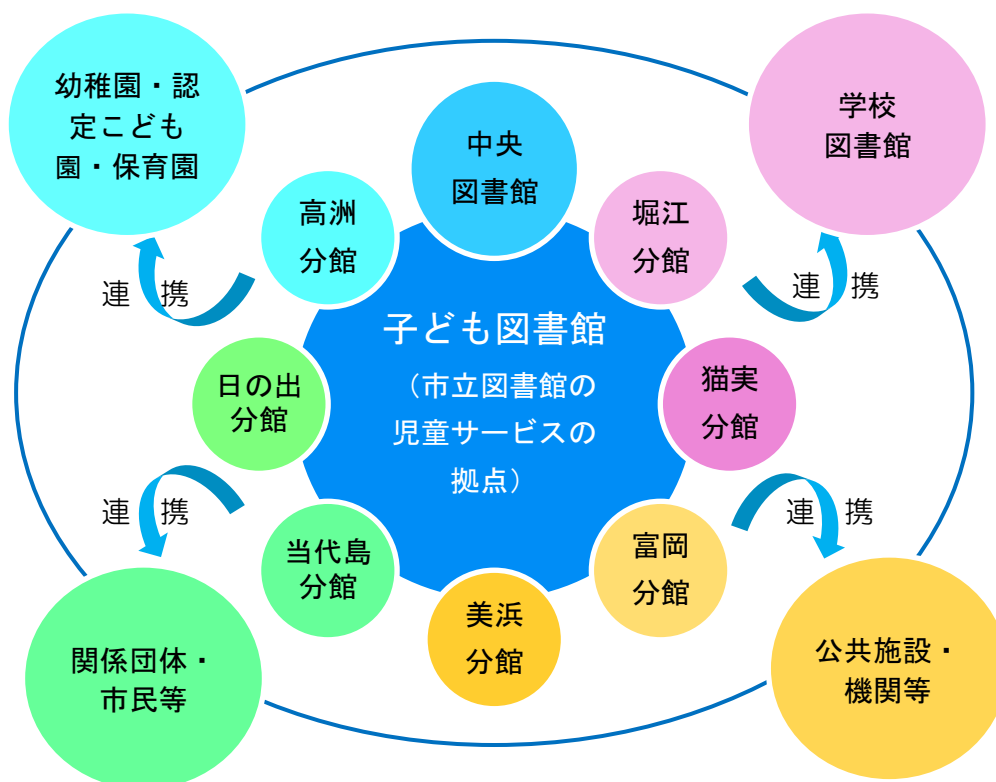
また、子どもが本に興味を持ち、主体的に利用できるよう工夫するとともに、ヤングアダルト世代が大人の読書にスムーズに移行できるよう努めます。

図書館像3 子どもの読書活動を推進する拠点となる子ども図書館

中央図書館や各分館とネットワークを構築し、市立図書館の児童サービスの拠点となる子ども図書館を目指します。

また、学校図書館や関係部署、子どもの読書活動を推進する団体などと連携・協働し、地域が一体となって子どもの読書活動を推進するための中心的役割を担う子ども図書館を目指します。

<子ども図書館を中心とした連携のイメージ>



図書館像4 子どもの読書活動を支える人材を育てる子ども図書館

これまでの市立図書館の質の高い児童サービスを継続し、さらに発展させていくことができるよう、児童サービスの担い手となる人材を育てる子ども図書館を目指します。

また、家庭や学校、幼稚園、認定こども園、保育園といった、子どもの生活の場での子どもの読書活動を支える人材を育てる子ども図書館を目指します。

3 4つの子ども図書館像の実現に向けた基本方針

目指すべき子ども図書館像の具体化に向けた基本方針を次のとおり設定します。

①子どもも親子も気兼ねなく、ゆっくり過ごせる環境をつくる

子どもと保護者が周囲に気兼ねなく利用でき、くつろいだ雰囲気ですぐに過ごせる環境をつくれます。

また、授乳室や飲食が可能なスペース、靴を脱いで利用できるスペースの設置など、子育て世帯にやさしい施設を整備します。

②子どもの成長に合わせた読書環境をつくる

未就学児からヤングアダルト世代まで、世代ごとに開架・閲覧スペースをゾーニングし、豊富な資料を揃えることにより、子どもが本に興味を持ち、主体的に利用できる環境をつくれます。

また、子どもの成長に合わせてブックスタート絵本講座やおはなし会などの行事を開催します。

③読書のきっかけや機会を充実させる

成長に伴う生活の変化の中で読書から離れている子どもや、読書が苦手な子どもでも、本に関心を持つきっかけづくりや、図書館を利用したくなる取り組みを進めます。

また、本への関心を高めるため、書架のレイアウトやディスプレイを工夫し、様々な行事を開催します。

④家庭での読書活動を応援する

読み聞かせなど、家庭での読書活動が子どもの読書習慣の形成に大きく影響することから、家庭での読書活動を支援します。家庭での読み聞かせの推進のための講座の開催や子どもの成長に合わせた本の相談・紹介などに取り組みます。

⑤学校や認定こども園などの子どもが集まる場所での読書活動を応援する

子どもの生活の場での読書活動が重要であることから、学校や幼稚園、認定こども園、保育園などでの読み聞かせやストーリーテリング、ブックトーク、団体貸出など、子どもの生活の場での読書活動を支援します。

⑥児童サービスの拠点施設として、ネットワークを構築する

子どもの読書活動を推進する拠点として、中央図書館や各分館と連携した児童サービスを展開します。

また、子どもの読書に関する資料や情報の収集に努め、子どもや保護者からの読書に関する相談や本の紹介などに対応するとともに、様々な情報の発信に努めます。

⑦学校図書館や子どもの読書活動の推進に取り組む団体と連携する

学校図書館、地域で子どもの読書活動の推進に取り組む団体やサークルなどと連携・協働し、子どもの読書活動を推進します。

学校図書館に対しては、クラス単位での調べ学習に対応できるスペースを整備するとともに、配送サービスの充実など、連携の強化を図ります。

⑧子どもの読書活動を推進する人材を育成する

子ども図書館の児童サービスを担う人材の確保・育成に努めるとともに、学校司書などを対象とした研修や相談の受付などを実施します。

また、中・高校生を対象とした絵本の読み聞かせなどの職業体験を実施し、子どもの読書活動を推進する未来の人材を育成します。

4 子ども図書館の計画概要

施設の規模については、本市の子ども人口を基礎に、一般的な図書館の整備基準や近年の子ども図書館の整備事例等を踏まえ、概ね次のような規模を想定します。

また、施設は、誰もが快適に不自由なく利用できるものとするため、ユニバーサルデザイン化を推進します。

(1) 施設の概要

- ・ 施設規模 延床面積 2,000 m²程度
- ・ 蔵書冊数 開架 約5万冊 全体の蔵書冊数 約15万冊（含：団体貸出用資料）
- ・ 予定する主な設備
おはなしのへや、グループ学習のスペース、イベントスペース
くつろぎスペース、授乳室、飲食スペース
学校への配送サービスのためのスペース、類縁機関へのサービスのためのスペース
研修や講座を開催するためのスペース など

※ 開架・閲覧スペースは、子どもの成長段階に合わせて対象ごとにゾーニングする。

※ 各スペースや設備については、効率的な配置と兼用可能な設定を検討する。

(2) 建設予定地

建設予定地：日の出公民館隣接地（浦安市日の出四丁目1番1号他）

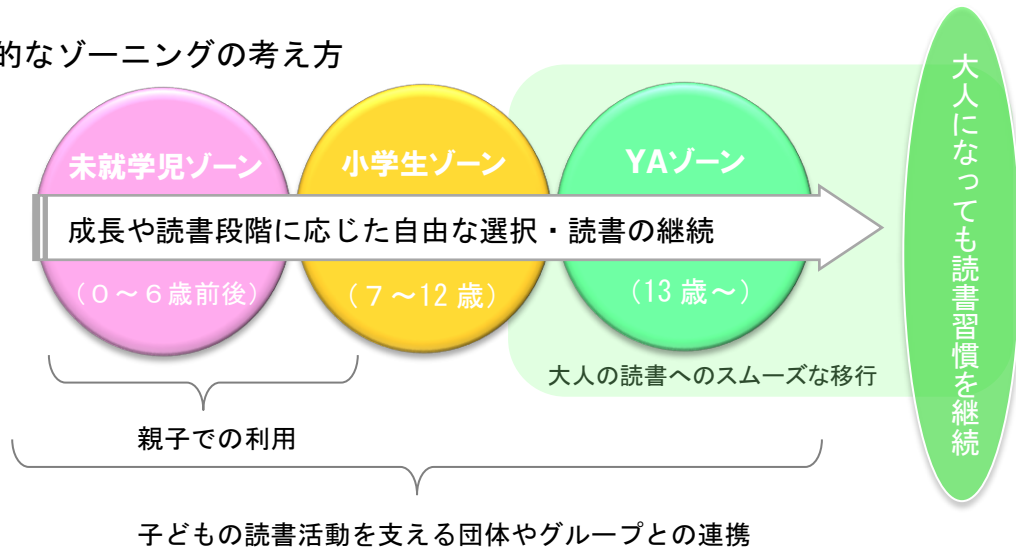
子ども図書館の建設予定地については、この基本構想に掲げる目指すべき子ども図書館像の実現に向けた施設整備の基本方針のほか、財政面や土地利用等を考慮するとともに、以下の点を含め総合的に判断し選定しました。

- ・ 新町地域センター地区に位置づけられ、公民館や消防署、交番など行政機能が集積している。
- ・ 隣接の日の出公民館は、子どもから高齢者までの異世代交流が図れる場となっているほか、親子が気軽に立ち寄ることができる場所である。
- ・ 周辺に生活利便施設があり、日常的に人が集まる場所となっている。
- ・ バスの停留所があり、誰もが利用しやすい場所である。

(3) 施設構成

子どもの成長に合わせて継続して利用できるよう、未就学児、小学生、中学生からのヤングアダルト世代を主な対象としたゾーニングを基本に施設を構成します。

基本的なゾーニングの考え方



(4) 子ども図書館に導入する設備

今後、具体的な施設の設計を進めていく中で、次のような設備の導入を検討します。また、各設備については、規模や配置などを検討し、他の目的や用途と兼用できるように配慮します。



①読書のための設備

開架・閲覧スペース

- ・ 子どもの成長段階に応じて開架・閲覧スペースをゾーニングします。
- ・ 中学生以上を主な対象としたティーンズコーナーを設置します。
- ・ 保護者や子どもの読書に関わる大人の利用を想定し、児童文学や子どもの読書に関する研究書や、子育てに関連する一般書のコーナーを設置します。その他の一般書については、施設規模に応じて検討します。
- ・ 子ども向けの点字資料や大活字本、布の絵本などのコーナーを設置します。
- ・ 雑誌、定期刊行物、視聴覚資料を収集します。

カウンター

- ・ 施設規模に応じてカウンターを設置します。カウンターでは、貸出・返却の処理のほか、検索、資料の予約、読書相談やレファレンスの受付を行います。

おはなしのへや

- ・ おはなし会などを開催するための「おはなしのへや」を設置します。
- ・ 1クラスを想定した30人程度が入る広さと、開催時の演出に必要な設備を設置します。

グループ学習のスペース

- ・ 子どもたちの読書やグループ学習のためのスペースを設置します。
- ・ クラス単位での利用にも対応できるスペースを設置します。
- ・ インターネット等情報機器の利用環境の整備について検討します。

閉架書庫

- ・ 児童サービスの拠点施設として、閉架資料やストック用資料の保管に十分な容量を確保します。
- ・ 閉架資料やストック資料の出納、季節に応じた本の入れ替えなどを行うための作業スペースを整備します。

イベントスペース

- ・ 様々な主催事業の開催や、子どもの読書活動に取り組む団体などとの連携・協働の場として、イベントスペースを整備します。
- ・ 本や作品の展示等も行える設備を設置します。

②快適に過ごすための設備

くつろぎスペース

- ・子どもと保護者がのんびりとくつろいで本を楽しめるように、未就学児を対象としたゾーンに、くつを脱いで利用するスペースを設置します。
- ・子どもが本に飽きた時に、また本に戻ってくるまでの時間を過ごすため、遊びの要素も検討します。

授乳室、子ども用トイレ

- ・子どもと保護者がゆっくり過ごせるように、授乳室や子ども用トイレを設置します。

飲食スペース

- ・子どもと保護者がゆっくり過ごせるように、持込可能な飲食スペースを整備します。

③関係機関と連携するための設備

学校への配送サービスのためのスペース

- ・団体貸出や学校利用券で貸出した本を、学校などへ移送するために必要な作業スペースを整備します。

類縁機関へのサービスのためのスペース

- ・学校司書などを対象とした研修や、打ち合わせなどができるスペースを設置します。

④人材を育成するための設備

研修や講座を開催するためのスペース

- ・学校などの類縁機関や地域で、子どもの読書活動の推進に取り組む団体や市民を対象とした研修や講座を開催するためのスペースを設置します。

(5) 子ども図書館の運営

子ども図書館を新たな児童サービスの拠点として位置づけ、中央図書館や各分館と連携し、図書館ネットワークの一部として運営します。

本市の図書館の運営については、昭和 58 年の中央図書館の開館以来、多くの市民の皆様から支持されてきたところであり、こうしたこれまでの実績も踏まえ、子ども図書館に最も適した運営に努めます。

①利用者の視点に立った運営

- ・ これまで課題であった子どもと保護者の利用環境の改善が図られるよう、運営面についても工夫します。
- ・ 子どもの成長に合わせて継続して利用できるよう、利用者の視点に立ったサービスの提供に努めます。
- ・ ティーンズコーナーの運営については、中学生からのヤングアダルト世代の意見や要望を反映したものとしていきます。

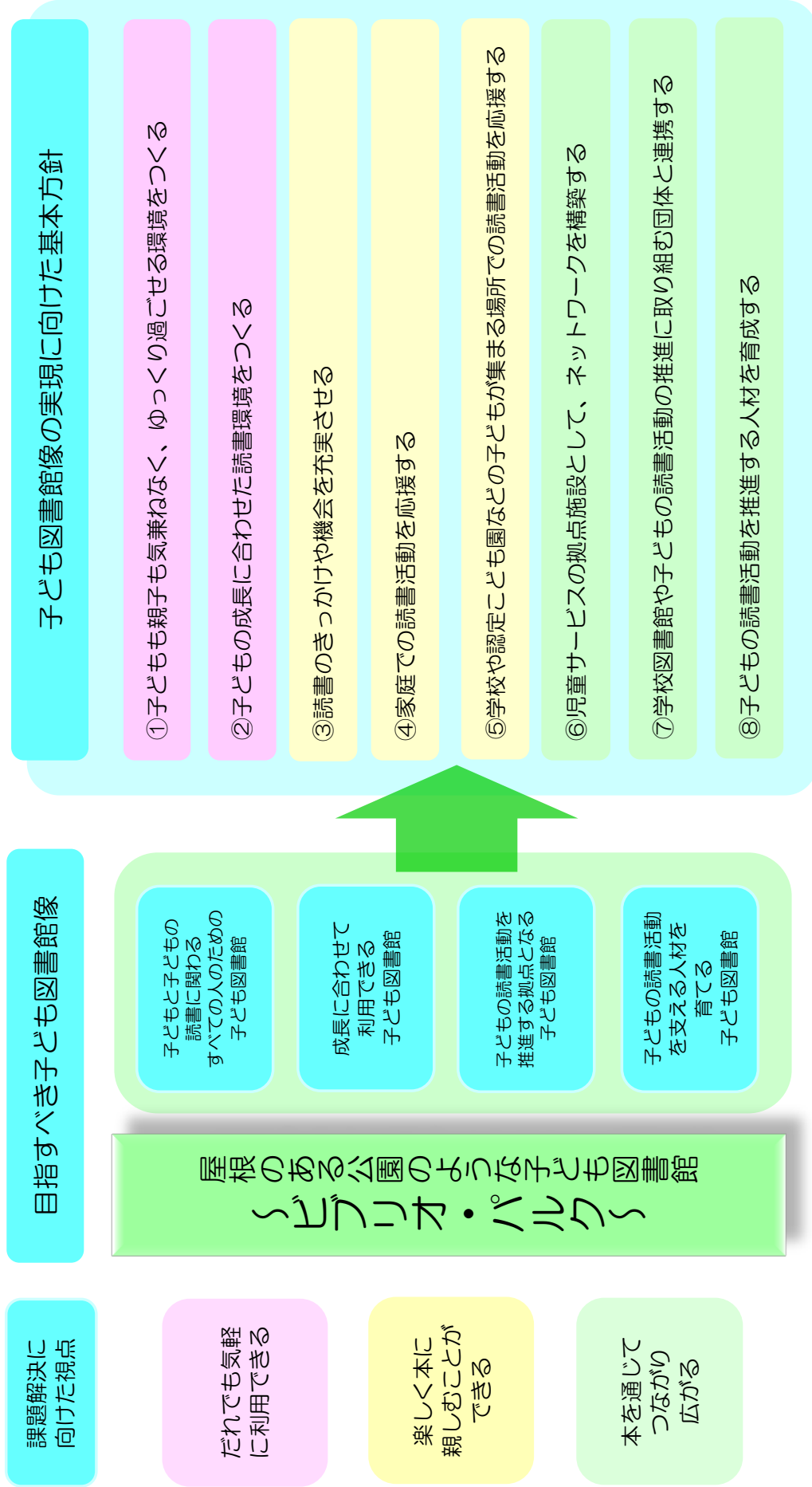
②拠点施設としての運営

- ・ 児童サービスの拠点として、これまで中央図書館が中心となってきた児童サービスに関する事務や各種事業を担当します。学校や幼稚園、保育園や認定こども園などの類縁機関を対象とした市の全域にわたる児童サービスについては、中央図書館や各分館と分担して対応していきます。
- ・ 団体貸出の機能や資料の管理などの業務を移行します。
- ・ 中央図書館の児童コーナーは、近隣地区の子どもへのサービスポイントとして、引き続き運営していきます。
- ・ 子ども図書館についても、中央図書館や各分館と同じ情報システムを使用することを想定しています。
- ・ 子ども向けの各種事業についても、公民館などの他の生涯学習施設と連携・協力して実施します。

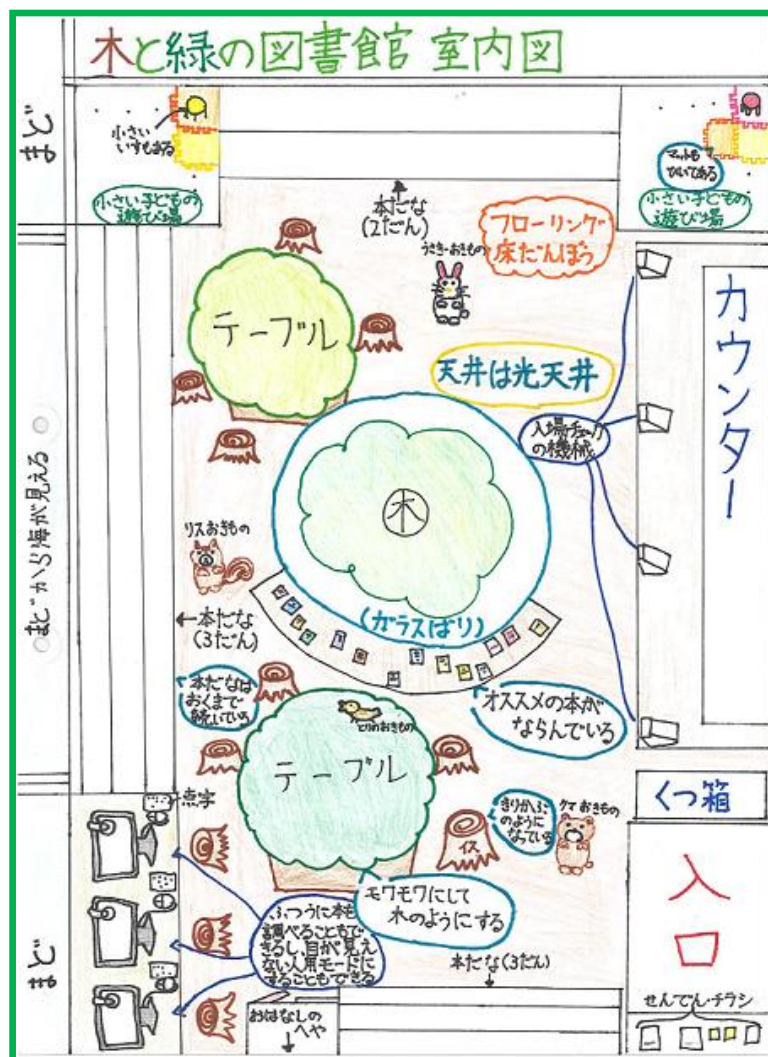
③人材の育成に努めた運営

- ・ 司書の育成に努め、これまでに培ってきた技術や経験を活かした、長期的で安定した児童サービスを提供していきます。
- ・ 学校や地域などで子どもの読書活動の推進に取り組む人材を育成し、様々な場面で連携していきます。
- ・ 子どもの読書活動に関する情報発信や相談機能の強化を図ります。また、子どもの読書活動の推進に取り組む団体や他の図書館との情報交換や交流に努めます。

(仮称) 浦安市子ども図書館基本構想の体系イメージ



「私の子ども図書館 構想計画!!」



小学生の部 市長賞 河野結菜さん(入船小学校5年)の作品
平成30年度 浦安市郷土博物館「ふるさと浦安作品展」

(仮称) 浦安市子ども図書館基本構想

発行日 平成31年(2019)3月

発行 浦安市

編集 浦安市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課
〒279-8501

千葉県浦安市猫実一丁目1番1号